

平成18(2006)年度後期

# 生徒による授業評価

## 結果報告

県立横浜旭陵高等学校

「生徒による授業評価」研究グループ

前期報告と併せてご覧ください

# 目次

・ 前期の評価を受けて . . . . .	P 3
・ 後期の日程 . . . . .	P3
・ 実施の実際 . . . . .	P3
・ 授業見学の報告 . . . . .	P4
・ 研究授業について . . . . .	P9
( 1 ) 国語科 . . . . .	P10
( 2 ) 社会科 . . . . .	P14
( 3 ) 数学科 . . . . .	P18
( 4 ) 理科 . . . . .	P22
( 5 ) 体育科 . . . . .	P27
( 6 ) 芸術科 . . . . .	P32
( 7 ) 英語科 . . . . .	P36
( 8 ) 家庭科 . . . . .	P39
( 9 ) 情報科 . . . . .	P42
・ 数字的な集約	
( 1 ) 全体 . . . . .	P45
( 2 ) 教科別 . . . . .	P47
( 3 ) 項目別 . . . . .	P48
・ 生徒からのコメント . . . . .	P53
・ 来年度に向けて . . . . .	P57

・ 前期の評価を受けて。

すべての教科・科目で授業改善に取り組む事となった。

教科別に評価分析のための話し合いを持ち、授業改善に向けて、研究授業を行った。

その際には、直接授業を担当する一人ですべてを考えるのではなく、教科全員で役割分担をして取り組むこととした。

テーマは「生徒主体の授業の工夫」を中心に改善を試みた。これは本校での前期評価結果をふまえてのことではあるが、全県における集計でも弱いところであるという報告があったためである。

また、すべての教員が複数の授業を見学することにより、他者の良いところを吸収して自分の授業に生かす活動をした。普段閉鎖的になりがちな授業展開であるが、多角的に授業を見学することによって、自分自身を見直す機会ととらえたい。

後期調査はすべての教科・科目・講座で実施した。その際前期と調査項目を同じにし、定点観測ができるようにした。

・ 後期の日程

時期	担当	内容
7/上	教科(担当者)	授業で評価用紙実施・回収
	生徒	評価用紙に回答・自己評価
7/中～	研究開発グループ	評価回答を集計
夏季休業中	研究開発グループ	集計結果を各教科に配布
9/上	教科(担当者)	教科・教科担当者で対応方法検討
9/下	研究開発グループ	教科での検討結果等の集約
	企画会議・職員会議	分析結果報告
10/上	研究開発グループ	中間報告冊子の検討
10/上	研究開発グループ	各教科での研究授業・事後研修会
	広報	HPで公開
11/中	企画会議・職員打合わせ	中間報告冊子の報告
11/下	教科(担当者)	授業で評価用紙実施・回収
	生徒	質問用紙に回答・自己評価
12/中～	研究開発グループ	回答を分析
1/中～		最終まとめ作成・公表
2/上	企画会議・職員会議	最終まとめ結果報告
2/下	研究開発グループ	県に報告
		LHR等で最終まとめの配布
	広報	HPで公開

・ 実施の実際

11月24日(金)から30日(木)で実施したが、授業展開上実施できない科目が一部見られた。そのため中間考査終了後の翌週をその科目の調査に当てた。

・授業見学

全職員に対して、複数の教科・科目を見学することとした。  
見学者は謙虚に授業を観察し、自分に足りない良いところを積極的に吸収するようにお願いした。  
また教科担当者については特段の用意は必要としていないが、  
「生徒が主体となった授業展開」を心がけてもらうようにした。

見学者	見学講座名	教科担任	参考になった事柄
国語4	現代文	相坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の取り組む課題が、一枚のプリントに収められ、学習展開順に印刷されていること。（教科書を忘れた生徒のフォローとしても可能であること。）</li> <li>・板書の文字が美しく大きく見やすいこと。</li> <li>・午後・昼食後の授業であったが、生徒が学習に集中するように個々に見合った言葉を投げかけていること。</li> </ul>
国語4	美術	飯田	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の興味・関心が高いと思われる題材が選ばれていたこと。（牛革で財布や筆入れなどは日常の必需品なので、学習成果も期待できると思う。）</li> <li>・型紙・模様付け・皮を縫うなどの諸行程が、各生徒の取り組み状況に応じて対応できていること。</li> <li>・13人の生徒が5つの作業机に別れ、和やかな雰囲気の中で学習していること。</li> </ul>
国語5	情報A	海部・山下	生徒が主体的に活動できるような工夫が施されていて参考になりました。
国語5	パソコン活用講座	兼坂	パソコンに関する豊富な知識に基づいたアドバイスを生徒一人に行って参考になりました。
国語6	現代文	相坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・穏やかな口調。私にはマネできない。</li> <li>・板書の文字の大きさ。後ろからでも明確に視認できる。</li> <li>・詳細なプリント。1日の授業の流れが明確になる。</li> <li>・以上当たり前のことを当たり前のように行うことが授業の基本であることを確認した。</li> </ul>
国語7	現代文	相坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・90分間をうまく構造化している。</li> <li>・授業進行を不必要に急がず、丁寧に進めている。</li> <li>・「黙読」を巧みに使用している。</li> <li>・プリント学習に基本と発展をもうけている。</li> </ul>
国語7	英語	植竹	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章の構造を文法的に明らかにし不明箇所がないようにしているところ。</li> <li>・新出単語を板書し、読解のつまずきとならぬよう配慮している。</li> </ul>
国語8	現代文	相坂	<ul style="list-style-type: none"> <li>・板書</li> <li>・プリントの工夫</li> <li>・発問の工夫</li> </ul>
国語8	英語	植竹	板書の工夫
国語10	現代文	相坂	生徒に対して指名し発言させることを多くしていた。
国語10	現代社会	伊澤	熱意が伝わった。生徒とフレンドリーな感じがほのぼのしていた。
社会11	日本史B	井上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・完成型の教材プリントを有効に使用していて達成感が生じるように工夫されていた。</li> <li>・各々の生徒に適時質問し飽きさせない配慮があった。</li> </ul>
社会11	日本史A	桐谷	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書対応型の自作プリントが用いられており生徒が自ら学ぶことができている。</li> <li>・その上で解説が進められており、段階を踏んでより深い理解ができるようになっていた。</li> </ul>
社会12	現代社会	伊澤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビデオの使い方</li> <li>・わかりやすく説明している点</li> <li>・生徒をよく見て授業をしている点</li> </ul>
社会12	情報A	海部・山下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さすがにベテランの両先生の授業でした。</li> <li>・生徒の興味・関心を引くための教材と作られている点が参考になりました。</li> </ul>

見学者	見学講座名	教科担任	参考になった事柄
社会13	現代社会	伊澤	ビデオ教材の導入、論述問題などどのように活用し、生徒に対して有効に利用できるか、考えるきっかけとなった。 一時間の中で変化ある授業に取り組み、生徒を飽きさせない工夫が見られた。
社会13	英語	植竹	穏やかに授業が進行しており、一つ一つの事柄に対し、生徒とのやりとりがあって、確認しながら進んでいる点が参考となった。現代社会ではそれほど機械的な部分が多いわけではないが、確認する事柄を見つけながら進んでみたい。
社会14	現代社会	伊澤	視聴覚教材の有効利用がなされていた。
社会14	日本史B	西川	・自作の視聴覚教材(高田屋嘉兵衛、ゴロウニン、日露友好の像など)が示され、生徒の興味・関心を引き出すことが効果的に行われていたこと。 ・詳細な作業プリント(江戸の市街図)が提示され、生徒が真剣に取り組んでいたこと。
社会15	現代社会	伊澤	・ビデオ教材を使って授業をする場合、見っばなし状態にならないように心がけなければならないが、その点、今回は授業の導入部として使いスムーズな授業展開に結びつけていたのが参考になった。 ・生徒への質問やプリントの穴埋めの指示が多少曖昧で生徒の側にとまどいが見られているようだった。
社会15	人権を学ぶ	桐谷	授業の前半で板書を中心としてテーマの要点をまとめ後半ではテーマに沿ったビデオ教材を鑑賞させ感想を書かせるという、非常にメリハリの利いた授業展開だった。90分間という授業の長さを有効に使った内容であったので講義一辺倒になりがちな自分の授業について改めて考えさせられた。
社会16	料理から見た世界の国々	今田	実習の授業を初めて見て生徒への接し方など参考になりました。
社会16	日本史B	西川	説明の仕方や生徒への対応など大変参考になりました。
社会17	現代社会	伊澤	生徒を順番に指名していて考えさせて答えさせていた。これが生徒の授業への集中力向上に役立っていた。 ビデオを効果的に使い生徒の関心を惹きつけていた。
社会17	政治経済	真田	板書だけではなく、言葉をメモさせる方法は授業への集中力向上に役立っていたようだ。 授業の高めの声と授業態度に注意を与えるところの低い声を使い分けていた。 生徒の知的関心をくすぐる言葉は大きくはっきりした声だった。 板書が早い。
社会18	数学	歌川	生徒との対話を大切にされていたところ
社会18	英語	岡元	たくさんありすぎてうまくまとめられないが、特に参考になったのは生徒が楽しそうに授業を行っているところです。
数学20	数学	歌川	問題をどんどん板書して生徒に回答させていく方法。 このぐらいのレベルがちょうどいいのかもしれない。
数学20	音楽	小野	実習の授業を一人でやるときの、生徒の把握に参考になるものがあった。 時間配分等が的確で参考になった。
数学20	家庭基礎	河辺	最初は、来週の研究授業の説明。次に1日の献立をチームで考える作業。 料理カードを使って、楽しく考えさせていた。授業も16人と非常にこぢんまりしており、指示は伝えやすい。声は決して大きくはないが的確に指示を与えてる。そうすれば生徒は聞くと言うことがわかった。
数学20	ハンゲル	今田	語学の授業で発問も多く、生徒が積極的に参加していた。
数学20	福祉援助・人権・児童文化・家庭総合A	井上・桐谷・河辺・小西・吉田	助産士の外部講師を招いての授業。 多目的教室にて、プレゼンテーションソフトを用いての講演だった。 途中ビデオを挟んで、飽きさせない工夫がされていた。(ビデオが感動的だった。)
数学21	保健	相原	生徒がリラックスして授業を受けている。
数学21	数学	歌川	パソコンを効果的に使用していました。

見学者	見学講座名	教科担任	参考になった事柄
数学22	数学	歌川	若い人のエネルギーを感じた！私ももう少し頑張らねば！
数学22	Zoology	山田・高森	外での授業とはどのようなものかわかりました。 座学ではできない興味深い授業です。
数学23	体育	中浜	みんなが好きな実技なので生き生き活動していた。数学でも何か作業等で工夫できないか考えた。数Aや数Cでその余地があるかもしれない。
数学23	Zoology	山田・高森	旭陵高校の「目玉」だけあってなかなか意義のある実習授業だった。90分授業が有効に展開されていた。生徒たちは広い敷地内を主体的に歩き回り観察ノートを付けていた。内容は「動物園学」と言ってもいいもので、展示方法を中心とした授業だった。 座臥区中心の数学に生かせるものを研究中。
数学25	現代文	相坂	授業に集中できない生徒に対し、親身に話しかけ、課題や読解等の作業に向かわせるよう対応していた。
数学25	Zoology	山田・高森	事前にプリント等で学習した内容を実物を見ながら解説することで、理解を助け、生徒が意欲を維持するよう工夫されている。
数学26	現代社会	伊澤	とても丁寧な言葉遣いで授業されていた。 またユニークな具体例なども交えながら楽しい授業にしようと言う雰囲気があった。
数学26	英語	岡元	新出単語など暗記事項を何度も復唱させるなど、その場で暗記させる工夫がなされている。 説明・指示が明確でわかりやすい。 わからない生徒にも一緒に考えさせながら授業が進められているように感じた。 他教科であるが真似できるところは是非参考にしたい。
理科27	生物	廣林	生徒たちの学習意欲をどう高めるか参考になりました。
理科27	福祉援助・人権・児童文化・家庭総合	井上・桐谷・河辺・小西・吉田	外部の講師を招いての授業運営について参考になりました。
理科28	情報A	海部・山下	コンピュータールームでの授業を行ったことがないので、生徒がPCで処理する場合の指導のやり方やTTでの授業の進め方などいろいろと参考になりました。
理科28	Zoology	山田・高森	校外授業での生徒への指導の仕方や授業の最後のまとめ方など参考になりました。
理科29	化学	齋藤昌	有機化学の炭化水素の分類と構造式の関係が、プリントで非常に分かりやすくまとめられているのが指導の上で大変参考になりました。
理科29	理科総合A	田中	運動エネルギーと位置エネルギーの関係を理解するのに、台車と振り子の模型を用いての演示実験は視覚的に非常に分かりやすいものでした。 また、数式を使っての計算も生徒への発問形式を取り込むことで全員が参加できる形態がとても参考になりました。
理科30	音楽	小野	90分の授業時間を飽きさせないように取り組ませる工夫が随所に見られました。自分たちが中高生の時に受けた授業のような一斉に歌ったり一斉にリコーダーを吹いたりした授業とは異なり楽しそうでした。
理科30	体育	中浜	事故が起こらないように巡視しながら声をかけ、指導していく細やかな配慮が感じられました。生徒が生き生きと動いているのに感心しました。
理科31	数学	歌川	・コンピュータを使用した授業は興味・関心を引くという点でよい。
理科31	Zoology	山田・高森	・テーマをしっかり提示することにより、生徒が当日のすべきことを容易に確認できた。 ・分散してしまう生徒を見つけてはきめ細かく指導していた。 ・最後の20分間でまとめの講義をすることにより、学習内容を知識として身につけることができているように思う。
理科32	現代社会	伊澤	ビデオ教材を見せながら効果的に学習させていた。対比を用いてわかりやすかった。
理科32	英語	岡元	単語やリスニングを勉強して最後に教科書を開くというやり方が生徒によくマッチしていて勉強になりました。

見学者	見学講座名	教科担任	参考になった事柄
保体34	レクリエーションスポーツ	相原・黒岩	教員中心の一方的な指導ではなく、場面場面で生徒に課題を与え自主的に生徒たちが授業に取り組めるように工夫しているところ。
保体34	体育	中浜	・体育で実技種目と言うこともあり、授業全体に活気がありとても良かったです。 ・受講者全員に課題をうまく設定し、実技演習、説明、指導がタイムリーになされていて非常に参考になりました。 ・見学者もなく非常によい授業でした。日頃の指導が良くできていると思いました。
保体35	体育	河内	前期自分がテニスで担当した生徒たちがテニスの時とは違い生き生きと活動していた。(河内先生が積極的に生徒と試合を行っていたのが良かったようです。)
保体35	体育	服部	3年生の授業はどうしても試合中心になりがちであるが、この授業はパス・トス・レシーブ・スパイク・サーブと順を追って行き届いた指導を行っていてとても参考になりました。
保体36	パソコン活用講座	兼坂	ITなので本来は見学ではないのかもしれませんが、私にとっては全くの初体験で内容もわからないことが多いので、とても勉強になっています。 兼坂先生は声が大きく、圧倒的ですからあります。話題も豊富で難しい内容を生徒の身近なものに置き換えて説明したりとても良い教材をお持ちです。 また、生徒の発言も話題にして活発なやりとりが見られます。 とてもレベルの高い授業だと思います。
保体36	体育	遠山・相原・加山	ディナミックダンスというダンスの領域を扱っていて私は全く初めての経験なので、上記以外にも何度か見学させていただいています。 もう何年か続いている授業なので、構成が練られていてスムーズに進んでいます。説明もわかりやすく参考になりました。
保体37	レクリエーションスポーツ	相原・黒岩	ダブルスの試合中心。 リーグ戦のため6カ所のコートをフルに使い無駄なく進めていた。
保体37	体育	服部	ウォーミングアップにかなり時間をかけ、体力づくりとあわせて丁寧に行っていた。3期生はとかくゲーム中心の授業内容となりがちであるが生徒もリズムよく体を動かしていた。 基本練習をしっかり押さえ、技術練習に取り組む姿勢も良かった。
保体38	保健	内田	特になし
保体38	体育	中浜	特になし
保体40	Zoology	高森・山田	生徒の持っている興味や好奇心を導き出す問いかけやプリントづくりによって更に充実した内容であった。 校外授業に置いてまとめを行ったりするスペースが今回のようにあると記憶が新しいうちにまとめができるのでよい。
保体40	体育	中浜	説明と授業のメリハリ。 生徒の要求を満たす指導内容。
芸術41	美術	飯田	本校の生徒にとって少人数の授業はとても有効だと思いました。
芸術41	英語	植竹	私も先生のように生徒がぼ～としているスキを与えない教材の準備が必要だと感じました。
芸術43	音楽	小野	写譜・箏曲・歌で90分を上手に生徒が退屈しないように授業が組み立てられており、参考になった。 一斉に演奏するときも生徒全体を見渡して、教師に意識が集中するように指導・声かけをしており参考になった。
英語44	現代文	相坂	・生徒がゆっくりと考えながら授業を受けることができる間の取り方がとてもよく、大切であると改めて気づきました。 ・集中して黙読させる時間をとるようにしているので、生徒に自分で読んだと感じさせることができ、大変に重要なことだと思いました。
英語44	英語	植竹	・フラッシュカードを使った復習は短時間でポイントを定着させるのに効果的であることがわかりました。 ・指名させて答えさせるより、自主的に挙手した生徒に答えさせる方が、授業が受動的にならないために必要であると思いました。意欲的な生徒が熱心に取り組めると感じました。

見学者	見学講座名	教科担任	参考になった事柄
英語45	英語	植竹	・カードの使い方がうまい。毎回触れる項目をカードにしているのは便利。 ・生徒が必ず黒板に書きに行っているのはよい。 ・板書内容がわかりやすく、説明も丁寧だ。 ・新しい課への導入が、雑談等も織り交ぜて自然に行われていた。
英語45	ハンゲル	今田	・生徒への質問、生徒が発言する機会が多く、生徒全員の注意が引きつけられて活気のある授業。 ・一つの表現を覚えるのに身近なことと関連づけているので生徒も取り組みやすいのでは。 ・板書が見やすく、理解もしやすい。 ・生徒の答えには「いいですね」と自然にほめていることも、生徒のやる気に一役買っているのでは。
英語46	英語	川崎	・小テストの実施方法 ・読解で黒板の地図を書いて効果的にQ Aを行っていたこと ・授業の要所要所で英語関係のみならず文化についてのQ Aを行っていたこと。
英語46	英語	鈴木	黒板の使い方がわかりやすかった。
英語46	英語	早川	英文を黒板に書いて説明するとき、簡潔な板書がわかりやすかった。
英語48	英語	植竹	板書がとても丁寧でわかりやすく工夫されていた。
英語48	英語	岡元	・生徒へのヒントの内容・タイミングがすばらしい。 ・CDラジカセを有効に使っている。
英語49	現代文	相坂	生徒の注目を集めるワザ、生徒が主体となっている授業、様々なことに工夫していることがよく分かりました。
英語49	英語	植竹	・できる限り英語を使って授業を進めているところが素晴らしい。 ・フラッシュカードを利用して、文を作る練習が良かった。
英語50	英語	植竹	・FLASH CARDSの使用法が工夫されていた。 ・資料の配付など飽きさせない流れだった。
英語51	オーラル	植竹	先生方二人が会話のモデルをする際、大きなカードにセリフを大きく書いたものを提示しながら行ったのが参考になりました。 また、全員にペアワークをやらせ、評価をしていたのも参考になりました。
家庭52	家庭基礎	河辺	『生徒による授業評価』の反省点が生かされている授業であった。しかし全体的流れ時間配分は検討が必要であろう。そのためには授業計画案をもう少ししっかり書くことも良いと思う。
家庭52	家庭基礎	河辺	実習のポイントを生徒一人ひとりが抑えていないと一人で調理実習を行うのは大変なことである。 TTが是非必要であると感じた。
家庭52	手作り講座	永野・吉田	生徒の力量が一人ずつ異なる中で自由作品の指導がかなり大変なことだと改めて感じた。
家庭53	家庭基礎	河辺	次回調理実習の説明ではポイントを押さえた明快な説明の仕方が参考になった。 また、後半の班単位での献立作成では各班に白紙3枚を与え、朝昼夕と食事のカードを配置させるといったことで、生徒に取り組みせる上での工夫が見られ参考になった。
家庭53	福祉援助・人権・児童文化・家庭総合A	井上・桐谷・河辺・小西・吉田	今回の講座の内容は、以前は「家庭一般」の授業で扱ってきた内容であった。生命誕生に関する内容は家庭科からははずれたが、今回のように妊娠の成立から一連の流れで命について考えられると学習効果が高いと再確認できた。
家庭54	情報A	海部・山下	実習で生徒主体でありながら、それ以上に生徒に考えさせる事柄が盛り込まれていて良かったです。
家庭54	家庭基礎	守泉	調理実習はなかなか足並みがそろいにくいのですが、丁寧にきめ細かく指導していました。
家庭54	福祉援助・人権・児童文化・家庭総合	井上・桐谷・河辺・小西・吉田	パワー・ポイントやDVD等映像を上手に使い、具体的にわかりやすく話していました。

## 研究授業について

担当者全員が研究授業を行うことが理想ではあるが、現実問題として場所の問題やその授業を検討する教員が不足している。

このため、教科ごとの研究授業を設定し、実施することとした。

その際には、発表者一人に任せるのではなく、科全員の会議で研究授業のテーマを検討し、複数の人間で教案を作成して実施することとした。

実効性をはかるため、生徒アンケートを作成し、事前と事後でどのように生徒の意識に変化があるかをはかることとした。更に教科の複数の教員で研究授業に出席し、教案に沿った形で授業が行われているか、生徒の反応はどうか等を観察することとした。

研究授業終了後、教科会議を開いて、研究授業の成果をまとめた。

教科	研究授業実施日時	場所	科目名	授業担当者	教案作成	アンケート担当	当日の記録	テーマ	ねらい
国語	11月15日(水) 3校時	B33教室	現代文	相坂	3名	1名	2名	夏目漱石「こころ」	「生徒主体の授業の工夫」をはかり、「生徒への接し方」を工夫する
社会	11月14日(火) 1校時	B33教室	現代社会	伊澤	2名	6名	1名	日本国憲法の原理	「生徒主体の授業の工夫」をはかる
数学	11月02日(木) 1校時	D46教室	数学	歌川				2次関数	「関心・意欲・態度」を育てる
理科	11月16日(木) 3校時	よこはま動物園ズーラシア	Zoolozy	山田・高森	3名	3名	2名	環境と動物の形態・行動	「生徒主体の授業の工夫」をはかる
体育	11月15日(水) 1校時	武道場	体育	中浜	2名	3名	2名	格技「柔道」	「充実感」「学習への取り組み」
芸術	11月08日(水) 3・4校時	美術室・音楽室	美術・音楽	飯田・小野	2名	2名	2名	箏演奏・皮工芸	「生徒への接し方」をさらに、丁寧に対応する。
英語	11月10日(金) 4校時	D45教室	英語	植竹	2名	2名	2名	不定詞とThat節	「充実感」「生徒主体」「分かり易さ」「接し方」
家庭	11月06日(月) 3校時	生活福祉系実習室	家庭基礎	河辺	2名	2名	2名	家族の食事計画	「充実感・生徒主体の授業の工夫・説明の分かり易さ」の改善
情報	11月14日(火) 2校時	第1コンピュータ室	情報A	海部	1名	1名	1名	グラフの貼り付け	「生徒主体の授業の工夫」をはかる

実施日	平成十八年十一月十五日(水) 三校時	実施クラス	現代文 a(二八名)	指導者	教諭 相坂次郎
科目名	現代文	教科書名	精選現代文(大修館書店)		
単元名	小説(二)	教材名	『こころ』(夏目漱石)		
指導事項	文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。				
単元の目標	日本近代文学の傑作の一つである『こころ』を読み、小説の読解力を深めるとともに、人間の心を深く考える。				
評価観点と評価規準	「関心・意欲・態度」 授業開始時の着席状況、教科書や筆記用具の有無、授業中の態度など。 「話す・聞く能力」 音読の様子、音読を聞く様子、場に即した質問など。 「書く能力」 プリントへの取り組み、短文作りなど。 「読む能力」 漢字の正しい読み、集中して黙読する様子など。 「知識・理解」 「じっくり読解」、「発見メモ」の記述内容など。				
単元の指導計画	第1～2時 夏目漱石について、「これまでのあらすじ」の補足。 第3～4時 恋を告白したKと、それを打ち明けられた「私」の気持ちを理解する。 第5～6時 「私」の利己心と、Kの「覚悟」の意味を理解する。 第7～8時 結婚の申し込みをしたときの「私」の気持ちの変化を理解する。 第9～10時 Kの自殺の原因を探る。【本時は第9時】 第11～12時 「その後」について、概略を理解し、感想をまとめる。				
本時の目標	教科書(p135下1～p141下15)を黙読し、プリントの「ちょっと確認」「漢字の読み」「語句の意味」「短文を作る」に取り組む。また、「じっくり読解」の「1」についてまとめる。				

今回観測するねらい・テーマ

生徒主体の授業の工夫  
生徒の主体性を高めるため、生徒一人一人が課題に積極的に取り組めるようプリント・教材に工夫を加える。  
生徒の接し方  
生徒一人一人に、意欲的のになかなか授業が理解できない生徒や、受け身な態度で人から言われないと勉強しない生徒への接し方を考え、設問等に工夫を加える。

【本時の学習指導計画】

過程	分	指導内容	学習活動	評価の規準と評価の方法
導入	5	アンケート。 漢字の書取。	学習者は「事前」の欄に記入する。指導者はアンケート用紙を回収する。 学習者は漢字小テストに取り組む。指導者はテスト用紙を回収する。	カードを提示できるか。
展開	4	これまでのあ らすじを確認。 1 読解のポイン トを提示。 15 大まかな内容 をとらえる。 5 漢字の読みを 確認。 5 語句の意味。 5 短文を作る。 5 読解。	指導者は前回のプリントを返却。学習者は指導者のコメントに目を通す。 指導者は本時に使用するプリントを配布。学習者は日付と名前を書く。 学習者は本文を黙読し、「ちょっと確認」1～10を○×でチェックする。 学習者は「漢字の読み」1～30にフリガナを書く。教科書にルビがふつ てある漢字については、その読みを漏らさず書くようにする。 指導者は学習者の様子を見ながら、「ちょっと確認」と「漢字の読み」の 正解を、順に学習者に発言させながら確認していく。 指導者は注意すべき語句の意味を板書し、学習者は板書をプリントに書 き写す。 息抜きを兼ねて、学習者は短文を作る。(↓息抜きにならない学習者が出 てくるかもしれない) 指導者は学習者を指名し、指名された学習者は指定された形式段落を音 読する。 学習者は「じっくり読解」1を考える。考えたことをプリントにまとめ ていく。 指導者は学習者の様子を見ながら、「じっくり読解」1を板書して考え方 を提示する。	教科書を持ってきているか。 黙読に集中できているか。 (睡魔に負けていないか) 漢字の正しい読み方を理解しよう としているか。 語句の意味を理解しようとしてい るか。 語句の意味を正しく理解し、工夫 して短文を作ろうとしているか。 丁寧に音読しようとしているか。 音読を静かに聞こうとしている か。 本文を読み返し、自分なりに答え を見いだそうとしているか。
終結	5	本時のまとめ。 アンケート。	学習者は「発見メモ」に、本時で感じたこと、発見したことなどを書く。 学習者は「事後」の欄に意見を記入する。指導者はアンケート用紙を回 収する。	新たな発見、考え方が自分の中に 生まれたか。

このころ ⑤ P二三五・下4〜P四三・終  
夏目漱石

【ちよつと確認】 ○か×か

- 1 私は猿楽町から小石川の谷へ下りる長い散歩の間、ずっとKのことばかり考えていた。
- 2 私が散歩から帰ってKの室を抜けようとしたとき、Kはいつものとおり今帰ったのかと言った。
- 3 夕食のとき、お嬢さんはいつものようにみんなと同じ食卓に並ばなかった。
- 4 どこか男らしい気性を備えた奥さんは、とうとう私のことを食卓ですっぱ抜いた。
- 5 五、六日たった後、奥さんは突然私に向かって、Kにあの事(私とお嬢さんの結婚話)を話したか聞いた。
- 6 奥さんから(私とお嬢さんの結婚話)聞かされたKは、最初から最後まで無言を貫いた。
- 7 私が進むうかよそうかと考えて、ともかくも明るる日まで待とうと決心した土曜の晩に、Kは自殺して死んでしまった。
- 8 私は、いつも西枕で寝ていた。
- 9 Kの机の上に置いてある手紙は、私の名宛てになっていた。
- 10 手紙を読み終えた私は、再び封の中へ入れ、わざと手紙をみんなくの目につくように、元のとおり机の上に置いた。

【漢字の読み】

- |         |        |         |
|---------|--------|---------|
| 1 界限    | 11 倫理  | 21 超然   |
| 2 手擦れ   | 12 至難  | 22 渦    |
| 3 回顧    | 13 詰問  | 23 軽蔑   |
| 4 格子    | 14 堪える | 24 跳ね返る |
| 5 刹那    | 15 狡猾  | 25 裾    |
| 6 衝動    | 16 滑る  | 26 疾風   |
| 7 曠野    | 17 窮境  | 27 薄志弱行 |
| 8 催促    | 18 陥る  | 28 回避   |
| 9 卑怯    | 19 挟まる | 29 葬る   |
| 10 拳止動作 | 20 勘定  | 30 畢竟   |

【語句の意味】

- 1 拳止動作
- 2 詰問
- 3 狡猾
- 4 超然
- 5 薄志弱行
- 6 畢竟

( ) (組) ( ) (番 氏名)

提出日	1回目	2回目	獲得P	今回P	累計P
	/	/			

【短文を作る】

詰問する…【語句の意味】参照。

【じっくり読解】

- 1 「何にも知らない」の内容

・「何にも知らないお嬢さん」(P二三五上14)

・「何にも知らないK」(P二三五下6)

・「何にも知らない奥さん」(P二三五下8)

- 2 「策略で勝っても人間としては負けた」(P四〇上2)とは?

- 3 Kの自殺を発見したとき、「私」が思ったことは?

発見メモ

## 国語科研究授業 アンケート集計結果

平成 18 年 11 月 15 日 **授業前実施** 受講者 20 名(男子 4 名、女子 16 名)

* 4月からのこの授業について教えてください。	はい	いいえ
1 この授業の目標はあなたの興味や関心にあっていると思いますか。	75%	25%
2 あなたはこの科目の評価の観点と評価基準を理解していますか。	85%	15%
3 教科書を持ってきましたか。	90%	10%
4 「こころ」という作品に関心を持っていますか。	80%	20%
5 授業内容はよく理解していますか。	80%	20%
6 板書はわかりやすかったですか。	100%	0%
7 先生は生徒に対して公平に接していますか。	100%	0%
8 授業のポイントが分かる進め方であったと思いますか。	95%	5%
9 授業の内容はクラスの理解にあっていると思いますか。	85%	15%
10 授業の進む速度はあなたにあっていると思いますか。	85%	15%
11 授業プリントは使いやすいですか。	100%	0%

平成 18 年 11 月 15 日 **授業後実施** 受講者 20 名(男子 4 名、女子 16 名)

* 今日のこの時間の授業について教えてください。	はい	いいえ
1 黙読に集中できましたか。	90%	10%
2 漢字の正しい読み方を理解しましたか。	95%	5%
3 語句の意味は理解できましたか。	95%	5%
4 他の生徒の音読をしっかり聞けましたか。	65%	35%
5 授業で取り上げた内容に関心が持てましたか。	90%	10%
6 授業をよく聞き、90分間意欲的に取り組みましたか。	85%	15%
7 授業の後、さらに学びたいことが出てきましたか。	25%	75%
8 他の人や先生の話聞いて自分の意見をまとめられましたか。	45%	55%
9 ノートに・・・(プリント使用のため、本アンケートはカット。)		
10 自分や他の生徒の発表はわかりやすいものであったと思いますか。	65%	35%
11 授業内容はよく理解できましたか。	85%	15%
12 分からなかった事が授業後は答えられるようになりましたか。	80%	20%
13 板書は分かりやすかったですか。	100%	0%
14 板書は工夫されていましたか。	100%	0%
15 先生は授業の開始や終了時間を守っていましたか。	100%	0%
16 先生は生徒に対して公平に接していますか。	100%	0%
17 先生は生徒の質問や発言にしっかり対応していましたか。	95%	5%
18 先生は授業に対して充分準備をして臨んでいると思いますか。	100%	0%
19 先生の話すスピードは適切でしたか。	90%	0%
20 先生の授業はわかりやすかったですか。	100%	0%
21 授業のポイントが分かる進め方であったと思いますか。	95%	5%
22 授業の内容はクラスの理解度にあっていると思いますか。	95%	5%
23 授業の進む速度はあなたにあっていると思いますか。	85%	15%
24 授業プリントは使いやすいですか。	100%	0%
25 授業プリントは理解に役立ちましたか。	95%	5%

## 生徒による授業評価にかかる研究授業の報告

1. 科目 「現代文」
2. 日時 2006年11月15日（水）3校時
3. ねらい <別紙1>
4. 指導演 <別紙1>
5. 生徒に対する事前事後アンケート用紙とその集計・分析 <別紙2>
6. 教員アンケート用紙とその集計・分析 <別紙3>
7. 指導演に対して当日の進行具合

ふだんは教科書を忘れない生徒が、当日は2名も教科書なしで授業を受けた。1名については、同じ部活動の生徒が隣の席だったので、仲良く一緒に教科書を使うように指示した。もう1名については、黙読の時だけ指導者（相坂）の教科書を貸して対処した。その他はほぼ指導演通りに進行した。

### 8. 今回の研究授業での成果・感想・まとめ

今回の研究授業のねらいとして「生徒主体の授業の工夫」と「生徒への接し方」を挙げた。「生徒主体の授業の工夫」については、生徒一人一人が課題に積極的に取り組めるようなプリントを用意した。具体的には、「ちょっと確認」「漢字の読み」「語句の意味」「短文作り」「じっくり読解」「発見メモ」の6項目を立て、「語句の意味」と「じっくり読解」以外の各項目について、教科書の本文を読んでいさえすれば、指導者の助言を待たなくても自分で取り組めるようにした。

「ちょっと確認」は、まず各自のスピードで黙読し、教科書を伏せて直前に読んだ内容が記憶に残っているかを自分自身でチェックするものである。その内容は、例えば「Kの机の上に置いてある手紙は、私の名宛てになっていた」○か×か、といったもの。この「ちょっと確認」を読後に行うことを意識することによって、黙読にも集中度が増してくる。

「漢字の読み」は本文から30問を精選しておく。生徒は読める漢字に読みを書いていく。読めなかった漢字は、もしかしたら教科書にルビがふってあるかもしれないと、もう一度本文を見返す。それでも読めなかった漢字は、後で順番に読みを答えてもらう中で確認していく。そうすると集中して聞き取ろうとする姿勢になる。たまたま読みの分からない漢字が順番で当たった場合は、「分かりません」と大きな声で言わせる。漢字の読みが分からないというのはちっとも恥ずかしいことではない、次に出てきたら読めるようにすればいい、とフォローする。これが後で音読するとき役に立つ。

「短文作り」は、教科書で「注意すべき語句」と指摘されている中から、比較的短文を作りやすい語句を選んでいる。それでも生徒にとってはほとんど馴染みのない語句が多く、イメージをとらえにくいようである。使い方の例を示すと、中にはショートストーリーになっている短文を作る生徒も出てきて、これはこれでなかなか楽しめる。

「発見メモ」は、授業中に感じたこと、気になること、ふとした疑問、新たに発見したことなどを、授業の最後で、あるいは授業の途中で、それぞれ「メモ」のように自由に書き留めておくものである。自由だから強制はしない。こういうタイプの作業を苦手とする生徒は特に男子に多いが、そういう生徒は書かなくてもよいこととし、書いてくれた生徒にはポイントを毎回2ポイント加えている。この「発見メモ」は、学習内容の浸透度が如実に反映されるものであり、本音がストレートに伝わってくるものでもある。もちろん、書いてくれたメモについては必ずコメントを添える。生徒にプリントを返すとき、受け取るコメントへのさりげない反応がうれしくもあり、励みにもなる。

「生徒への接し方」については、意欲的なのになかなか授業が理解できない生徒や、人から言われないと勉強しない生徒への接し方を考え、発問などに工夫を加えることにした。具体的には上述した内容の学習プリントを配布し、指導者からの投げかけをなるべく抑え、自ら取り組む時間を多くしたということである。

ここでもやはりポイントは「発見メモ」である。生徒への接し方は授業中でないほうが接しやすいくともある。その場では取り組みが不十分でも、ちょっとした励ましをコメントに書いて戻すことで、「次はがんばる」という姿勢を引き出すことができる。

- 1 教科・科目 公民科・現代社会
- 2 日時 平成18年11月14日(火)第1校時
- 3 学年・学級 現代社会 d 組
- 4 場所 B33教室
- 5 単元名 「日本国憲法の原理」
- 6 使用教材 ビデオ・教科書・プリント

## 7 単元の目標

- (1)日本国憲法の成立過程を理解する。
- (2)日本国憲法の基本原理を理解する。
- (3)三権分立の重要性を理解する。
- (4)民主主義の試練を理解する。

## 8 単元の特性

- (a)目標観 生徒が憲法という抽象的な事柄を具体的で現実的な事柄として実感をもって捉えること。
- (b)教材観 生徒が教科書の内容を理解するのを容易ならしめるためのプリントを用意する。授業はそれを軸に展開する。その際、教科書を資料として活用する。
- (c)生徒観 教員が教材研究をきちんとして授業に望むならば、教員の展開する授業についてくる力は十分にある。生徒が途中で諦めてしまう場合、その原因は、担当教員の怠慢にある。

## 9 単元の評価計画

## (1)評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・発表	知識・理解
教員が指示した作業を迅速に行なうかどうかで評価する。	小テストで評価する。	論述問題で評価する。	教員の発問に答えたか。さらに論述と小テストで評価する。

## (2) 評価計画 ※太枠内が本時

時	学習内容	評価項目			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・発表	知識・理解
1	民主主義の定着と試練	教員の指示に迅速に反応するかどうかで評価する。	なし。	論述問題で評価する。	論述問題で評価する。
2	日本国憲法の基本原理	教員の指示に迅速に反応するかどうかで評価する。	小テストで評価する。	論述問題で評価する。	教員の発問に答えたか。さらに論述と小テストで評価する。

## 10 本時の展開

## (1) 本時の目標

- 1 ファシズムに陥らないために民主主義国家日本において、どのような努力をするべきかを具体的に言葉に出して説明できること。
- 2 日本国憲法の成立過程とその基本原理を理解すること。

## (2) 本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価観点 (方法)
導入 (30分)	ビデオのあらすじ紹介・ビデオ上映・ビデオの内容に基づいて論述。	民主主義国家のファシズムへ墮落を我々の努力によって防ぐことが必要なこと。	ドイツにおけるファシズムが日本においても行なわれていたことに気づかせる。	関心・意欲・態度 技能・発表 知識・理解
展開 (45分)	日本国憲法の成立過程とその基本原理を教科書を使って理解する。	明治憲法の問題点を理解する。 日本国憲法の成立過程を理解する。 日本国憲法の内容を理解する。	明治憲法の天皇主権を理解する。 GHQの期待は国民主権の憲法であり、日本政府は天皇主権を主張したことを理解する。	関心・意欲・態度 思考判断 技能・発表 知識・理解
まとめ (15分)	日本国憲法の基本原理のほかに重要なものが、三権分立であることを理解する。	国民主権と基本的人権の尊重と平和主義を憲法の中から見つけてまとめる。	作業を意欲を持って取り組めるように、的確な指示に心がける。	

(3) 本時の観点別評価について

【関心・意欲・態度】

学習活動における具体的評価規準	遅刻せず出席しているか。持ち物はすべてそろっているか。教員の指示・発問に適切に従い、反応しているかどうかで評価する。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況	遅刻せず、持ち物をすべて持ってきている。教員の指示・発問に適切に従い、反応する。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	ルソーの一般意志の観点を思い出させ、適切な行動が如何にあるべきかを本人の言葉で表現してくれるまで対話する。

【思考・発表】

学習活動における具体的評価規準	小テストに適切に回答しているかどうかで評価する。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況	小テストが満点。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	再度小テストを実施する。

【技能・発表】

学習活動における具体的評価規準	論述問題が出来ているかどうかで評価する。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況	民主主義国家のファシズムへ墮落を我々の努力によって防ぐことが必要なことを理解して論述をしている。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	再度、解説する。

【知識・理解】

学習活動における具体の評価規準	教員の発問に答えたか。さらに論述と小テストで評価する。
「十分満足できる」状況(A)と判断した具体的状況	教員の発問に適切に答え、論述も小テストも完璧に出来ている。
「努力を要する」状況(C)と評価した生徒への手だて	再度解説し、テストする。

## 社会科研究授業 生徒アンケート（集計結果）

今回の研究授業のテーマは「生徒主体の授業の工夫」です。

無記名ですので、あなたの感じたままを書いて、このアンケートに協力してください。

### 22名回答

1. 今日の授業のあなたの満足度はどうでしたか。

7) とても満足できた 1) まあまあ満足できた 9) 少し不満 1) かなり不満  
22% 45% 32% 0%

2. 今日の授業では、課題に対して自分自身で考える時間がありましたか。

7) あった 1) あまりなかった 9) 全くなかった  
32% 64% 0%

3. 今日の授業では、自分自身で考えたことを書いたり、発言したり、表現する場面がありましたか。

7) あった 1) あまりなかった 9) 全くなかった  
36% 55% 5%

4. 今日の授業は、先生の講義を一方向的に聴くだけでなく、生徒が主体となった授業展開だったと思いますか。

7) 思った 1) あまり思わなかった 9) 全く思わなかった  
55% 32% 14%

5. 今日の授業で先生は生徒一人ひとりと接しながら授業を進めていると感じましたか。

7) 感じた 1) あまり感じなかった 9) 全く感じなかった  
55% 32% 5%

### 指導案に対して当日の進行具合（授業者より）

まとめに当たる小テストをおこなう予定であったが、小テストを行わずに終了した。

### 今回の研究授業での成果（授業者より）

プリントを使って授業を行った。したがって、生徒はプリントの穴埋めを行うことになった。この条件の下では、生徒は教員の話していることに耳を傾け、かつ、板書事項がプリントのどこに当てはまるのかを考えなければならない。以上のことは今回の目標実現に向けた成果であると考えられる。

## 数学科研究授業について

### 1. 指導案(別紙)

### 2. 生徒アンケート集計(別紙)

### 3. 教員アンケート(別紙)

### 4. 指導案の修正

おおよそ事前に作成した指導案どおりに進んだが、最後に数分の時間が残ったので、本時内容の確認小テストを最後に行なった。

### 5. 研究の成果

普段は、事前の準備や設備等の関係からなかなか使うことが難しいコンピュータを使用した授業を行なった。コンピュータを用いることにより、グラフを動かしながら説明できるので、より視覚的な解釈ができるということを目指したものである。結果は、生徒アンケート集計に見てとれるところである。目新しさも伴い、生徒は理解が深まったと感じている者が多いようである。よって、コンピュータを用いた授業には利点があるといえる。しかし、より効果的に使うためには、一層の研究が必要であるとも感じた。また、準備時間の短縮を考えたため、あえてスクリーンは使わなかったが、アンケートにもあるとおり、見づらく感じた者もいたようである。

本時のようにコンピュータを用いる授業には、その有用性ととも次のような課題が残されたといえる。一つ目に、準備についてである。本時は複数名で準備にあたったが、プロジェクタ、スクリーンを設置し、コンピュータに接続することを教員が一人で頻繁に行なうことは容易でない。二つ目に、黒板とスクリーンの併用のしかたについてである。スクリーンのみで授業が行なえるのであればよいが、スクリーンと黒板をうまく交互に使用したい場合には、次の点でさらなる工夫がいると思われる。スクリーンの位置を確保するために黒板の使用できる範囲が限定されるため、双方をうまく使い分けるために板書内容を簡潔に努めるなど考える必要がある。

コンピュータ使用の有用性を感じるとともに、課題点も浮彫りになる結果であった。

### 6. その他

特になし。

- 1 教科・科目 数学・数学
- 2 日時 平成18年11月2日(木)第1校時
- 3 学年・学級 第1学年相当 数 a3 基本クラス
- 4 場所 D46教室
- 5 単元名 「2次関数」
- 6 使用教材 プロジェクタ、スクリーン、Function View

#### 7 単元の目標

- (1) 2次関数の一般形、標準形の式を理解し、グラフに表すことができる。
- (2) 2次関数の最大・最小を理解できる
- (3) グラフや与えられた条件から2次関数を決定できる。
- (4) 2次関数のグラフと2次不等式の関係が理解できる。

#### 8 単元の特性

本単元は、解答にいたる際に、生徒が図(グラフ)をどれだけイメージできるかが重要である。また、図はパラメータにより移動できるほうが、より理解を助けることができる。そこで、グラフ描画ツールFunction View を利用し、解法の一助となるようにした。

2次不等式は、細かく見ていくと解法のパターンが多岐にわたるため、単純なパターンの認識のみでは、対応しきれないことが予想される。本単元の内容を深めるために、コンピュータの利用が有効と考えた。

生徒観については、本時対象の生徒は基本クラスの生徒であり、数学を苦手としている生徒がほとんどである。苦手意識から問題演習においてもすぐに手を止めてしまい、私語を始める生徒も少なくなく、コンピュータを使う目新しさから授業に興味を引かせたいところである。

#### 9 単元の指導計画(10時間扱い)

- (i) 2次関数のグラフとx軸の共有点 (2単位時間)
- (ii) 2次不等式(共有点が2つあるもの) (2単位時間)
- (iii) 2次不等式(共有点が1つまたはないもの) (2単位時間・本時)
- (iv) 2次不等式の応用(連立2次不等式他) (2単位時間)
- (v) 演習問題 (2単位時間)

10 単元の評価規準

関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	表現・処理	知識・理解
2次不等式を解くために、2次関数との関連性を積極的に学習しようとする。	グラフの意味を理解した上で、2次不等式の解を導くことができる。	グラフから2次不等式の満たす範囲を確認することができる。	2次不等式の基本的な解法を理解し、解答できる。

11 本時の展開

(1)本時の目標

- ・ 共有点を2つもつ場合の2次不等式の解法を定着させる。
- ・ 共有点が1つもしくは無い場合の2次不等式の解法を学習し、理解させる。

(2)本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価観点(方法)
導入 (20分)	既習事項の復習 ・ 共有点が2つの2次不等式	共有点が2つの2次不等式を復習	数問練習した後、コンピュータで確認	【表現処理】 2次不等式の範囲をコンピュータで確認できる
展開 (60分)	・ 共有点が1つの場合  ・ 共有点がない場合	解説及び問題演習  解説及び問題演習	すべての問題パターンを網羅すること 図を必ず描き、解法を説明	【関心意欲態度】 グラフの意味を理解し、本時の内容を理解しようとする 【数学的な見方や考え方】 2次不等式を2次関数と関連付けて解答できる 【知識理解】 解法を理解し、2次不等式の解を導くことができる
まとめ (10分)	2次不等式のまとめ		最後にコンピュータで確認	【表現処理】 2次不等式の範囲をコンピュータで確認できる

## 研究授業アンケート

今回の研究授業のテーマは、「説明の分かり易さ」です。無記名ですので、自分の感じたままを書いてください。授業の初めに事前アンケートを、また終わりに、事後アンケートをお願いいたします。

回収枚数 22

事前アンケート(質問の回答には、該当すると思われるものに一つだけをつけて下さい)

0. 前回の授業で、あなたの授業態度について、どうでしたか  
私語はしていた 11 私語はしていない 11
1. 前回の授業で、自分で内容を「理解しよう」としていましたか  
している 21 していない 0
2. 前回の授業で、あなたの理解度はどうでしたか  
よく分かる 0 分かる 11 少し分かる 8 分からない 3
3. いままで授業で、説明はどうでしたか  
よく分かる 0 分かる 9 少し分かる 11 分からない 2
4. 二次関数のグラフと二次方程式の解との関係を理解していますか  
よく理解している 0 理解している 17 少し理解している 17 理解していない 4
5. 二次関数のグラフと  $x$  軸との共有点が二つあるとき、二次不等式が解けますか  
できる 0 簡単なものならできる 15 できない 7

事後アンケート(質問の回答には、該当すると思われるものに一つだけをつけて下さい)

0. 今回の授業で、あなたの授業態度について、どうでしたか  
私語はしていた 1 私語はしていない 21
1. 今回の授業で、自分で内容を「理解しよう」としていましたか  
している 22 していない 0
2. 今回の授業で、あなたの理解度はどうでしたか  
よく分かる 1 分かる 15 少し分かる 7 分からない 1
3. 今回の授業で、説明はどうでしたか  
よく分かる 0 分かる 15 少し分かる 7 分からない 0
4. 二次関数のグラフと二次不等式の関係が、分かりますか  
よく分かる 0 分かる 9 少し分かる 11 分からない 2
5. 今回の授業(コンピュータ、プロジェクト)の感想を書いてください。

分かり易かった	15
理解できた	2
分からない	3
画面が見にくい	3

# 学習指導案

指導者 高森亜紀子 山田富士彦

1. 教科・科目 環境・Zoology
2. 日時 平成18年11月16日(木) 第3校時
3. 学年・学級 3期生・4期生 Zoology c
4. 場所 よこはま動物園(ズーラシア)
5. 単元名 環境と動物の形態・行動
6. 使用教材 プリント ホワイトボード

## 7. 単元の目標

- (1) 自然環境や人為的環境が、動物の形態・行動にどのような影響を与えるかを考える。
- (2) 生物種の保護と環境保全について、動物園のあり方なども考慮しながら考える。

## 8. 単元の特性

本単元では、最終的には人間と動物の関係のあり方にまで発展させて考察させることから、動物園の歴史や構造、役割について学習することが必要になる。個々の動物の生態や行動に配慮した展示方法(行動展示)、その動物の生息地の状況をふまえて再現した展示方法(ランドスケープイマージョン)、また動物の福祉に配慮した手法(環境エンリッチメント)など動物園が行っている工夫をいかに理解させるかがポイントとなる。このような工夫は答えが決まっているわけではなく、自分の視点で見つけさせることが大事である。そのために今回は実際に調査・観察させることで主体的に取り組み、理解させていきたい。

生徒観については動物に興味を持って積極的に取り組んでいる生徒が多いが、一部受け身になっている生徒もいる。

## 9. 単元の指導計画(12時間扱い)

- (1) 動物園の歴史(2時間単位)
- (2) 動物園の役割(繁殖センター見学)(4時間単位)
- (3) 動物園の構造、展示方法(バックヤード見学)(6時間単位・本時)

## 10. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
動物園が行っている活動や展示の工夫など積極的に調査・観察しようとする。	個々の動物が持つ生態と動物園の展示手法との関係性を考察し人間と動物の関係のあり方について意見をもつ。	動物園での調査・観察を通して個々の展示場がどのような工夫をしているのか表現できる。	動物園の歴史や動物園で展示している動物の配列方法や展示の手法について理解している。

## 11. 本時の展開

### (1) 本時の目標

- ・動物園における動物の配列方法や展示の手法・工夫について実際に調査・観察しながら発見していく。(今回はその作業の後半である)
- ・よこはま動物園(ズーラシア)はランドスケープイマージョンの考えを取り入れた日本で最も典型的な動物園であることを理解させる。

### (2) 本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価観点(方法)
導入 (5分)	今回の調査・観察において注意すべき点を確認。	前回の課題で気づいた点を中心に、より具体的にまとめるよう指導。	提出された課題に個々に気づいた点をコメントしておく。	[知識・理解] 展示動物の配列方法や展示の手法について理解している。
展開 (70分)	個々の動物の展示の手法・工夫について調査・観察する。	日本の山里、アマソンの密林、アフリカの熱帯雨林の展示場をまわりながら生徒が自主的に個々の動物の展示の手法・工夫について調査・観察する。	時間の節約のためにショートカットコースを使わせる。 展示場をまわりながら調査している生徒を観察・助言を与える。	[関心・意欲・態度] 動物園が行っている展示の工夫など積極的に調査・観察しようとする。 [技能・表現] 個々の展示場がどのような工夫をしているのか表現できる。
まとめ (15分)	動物の展示の手法・工夫について(まとめ)	生徒からの発表 ホワイトボードを用いて代表的な展示場のつくりを解説	他の生徒の発表をきくことによって、理解を深めさせる。	[思考・判断] 個々の動物が持つ生態と動物園の展示手法との関係を考察できる。

# 動物園の展示方法・方式(その1)

## I 展示動物の配列の仕方

① 形態学的配列 : 動物の外部形態で分ける

(例) 白い動物たち (トラ、シマウマ、ワビ-の突然変異など)

・ 猛獣

② 系統分類学的配列 : 動物の系統分類に従って並べる

(例) サルの仲間 (霊長目)

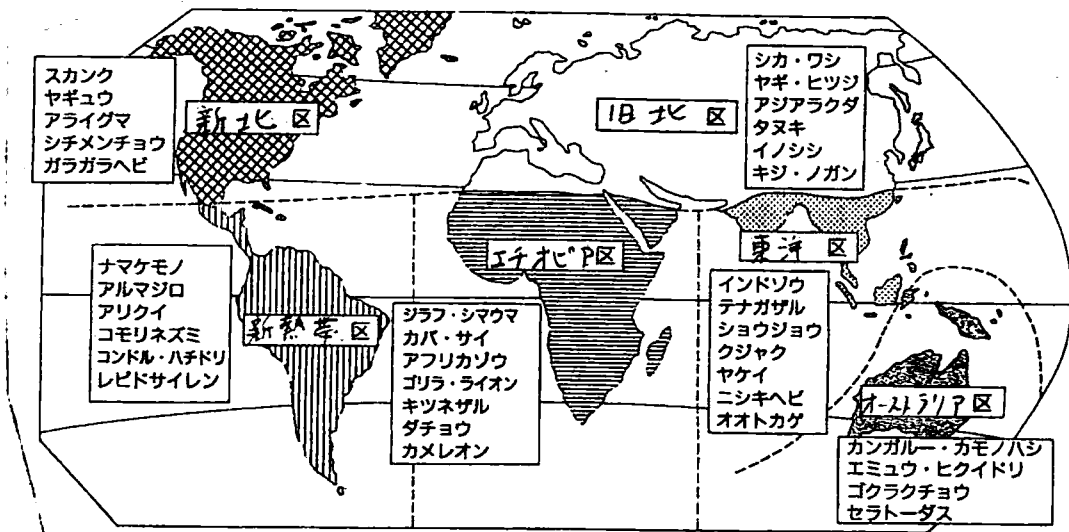
・ ウシの仲間 (偶蹄目)

・ クマの仲間 → 大きさを比較できる (ベルクマンの規則)

・ 近縁種の比較・観察ができる

・ 飼育管理がしやすい

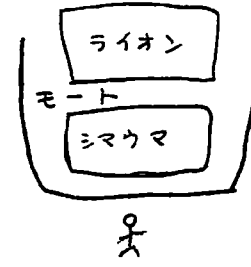
③ 動物地理的配列 : 動物地理区(下図)ごとに配列



・ 1928年 ヲラブルン動物園 (ミュンヘン) が、はじめて

・ 並べ方を変えただけではその地域の実感わきにくい

④ パノラマ(景観)的展示配列 : (モートで区切られた複数の展示場を重ねて見る)



(上からの図)



(横からの図)

奥ほど高くなっている

↓  
シマウマとライオンがいるアフリカのサバンナ と見える

・ 1902年 ハーゲンベック動物園 (ドイツのハンブルク近郊) がはじめて

・ 広い面積が必要

⑤ 生息域的配列 : (気候別の生態系(バイオーム)ごとに) ⑥を発展させたもの  
生息地の景観を再現

(例) アジアの熱帯林 (高木を越える) ・ アフリカのサバンナ (草原にする)

↓  
・ 生態展示(ランドスケープイマージョン) (次ページ参照)

・ 1975年 ウッドランドパーク動物園 (シアトル) ・ ズーラシア

⑥ 行動学的配列 : 行動特性によって一括して配列

(例) 上野動物園 夜行動物舎

・ 夜行性動物を展示 : 部屋を暗くし、赤色灯の照明  
(コウモリ・ベンガルヤマネコ・スド-ロリスなど)

## II 展示を効果的にするために

・ 解説プレート : 名前・特徴など

・ 解説員 : ガイドツアー など

・ ビジターセンター : 質問に答える資料図書 イベント案内

・ ボランティア : 地域の人に手伝ってもら

# 動物園の展示方法・方式(その2)

## Ⅲ 展示動物の隔離法(逃げないようにする方法)

### ① 檻舎式: おりや囲い

a ヲア・ピット



(視線が同等~下なので  
客が 優越感  
だが 客のいたずらが多い)

b 鉄格子



c 金網



d ガラス

{ 強化ガラス  
アクリル樹脂 }

最近 技術発達して多く使われる

- そばでよくみえる
- 伝染病を防げる

ただ  
◦ 匂いや鳥き声分かりにくい (匂いかならないのはいいけど? 悪いけど?)

### ② モート式: 堀

◦ 1928年(昭和3年)上野のホッキョクグマが日本で初めて(現在も使用)

a 空堀



◦ 客の視線のシャマがない

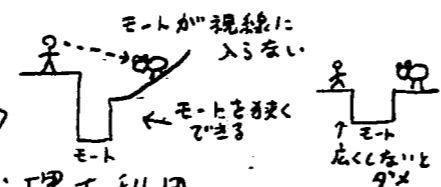
b 水堀



ただ  
◦ 客と動物が遠くなる  
◦ 広い面積が必要

※ モートを目立たなくする工夫

- 水草など使い池のようにする
- 客を動物より高くする

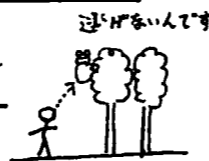


### ③ 心理柵式: 動物の習性や心理を利用

(例) ◦ 暗い所をきろう鳥 = 展示場を明るい通路は暗く

◦ シンガポール動物園

◦ アマリン(下に降りない) = 木の上にはさす  
(ワル) という習性



## Ⅳ 展示方法(何を見せるか?)

① 形態展示: 動物の外部形態を観察(顔, 形 におい)

② 行動展示: その動物特有の行動をみせる

(参) 常同行動: オリの中を往復したり, 同じ動きを続ける

↓ (退屈している)

◦ 行動の多様性

↑(必要)

③ 環境エンリッチメント (環境の多様性)

つまり 刺激を増やす (身体的・精神的に健康にする)

(方法) (i) 食べ物 ◦ わざと食べにくくする ◦ 新しい食べ物  
(箱に入れてよく振らないと出てこない, など)

(ii) 新しい経験 ◦ おもちゃ ◦ におい ◦ 音 ◦ 壁画  
(ローテーションして変えていく)

(iii) 展示場の工夫 ◦ 旭山動物園の おらんうーたん館 ペンギン館 (水コントロール)

※ いずれも人工物? 生息地にはない!

◦ シンパシジーにD-7°のジャングルジム  
(愛知の霊長類研究所)

(iv) 社会的ニースをみたく ◦ 群れは群れ, 孤独は孤独

### ③ 生態展示(ランドスケープイマジネーション)

◦ 動物の生息地の景観を再現 ← 土岩, 池, 川, 植物 などを使う

(例) ◦ ズーラシア  
◦ ガラス動物園

◦ 熱帯雨林を再現し, その中にゴリラを展示

◦ 動物や観察がその景観の中に浸れる

↓  
◦ その自然が理解できる

だが  
◦ 客が動物をみつけにくくなる

◦ 管理が大変 (植物の管理, 衛生面) コンクリートは, 33℃しやすかった

◦ 「環境エンリッチメント」 との両立が難しい

期 組 番氏名 \_\_\_\_\_

# 動物園の展示方法・方式の調査(その1)

期 組 番 氏名

先週授業で使った「動物園の展示方法・方式」について実際調べてみよう。

※先週のプリント2枚(No14~15)を参照して下さい。

## I. 展示動物の配列について

- プリントで習った①~⑥のうちどの配列に近いか、説明しなさい。  
(例) スーロシアは「・・・」「・・・」などあるのでプリントの・・・に近い

スーロシアは、動物地理的配列がよい。プリントの系統分類学的配列に近い感じがした。モト式で多く使った。地や草などでもよくモトをかくて見えにくくなっている。ほとんど生態展示が効果よく見えた。

## II (省略)

## III. それぞれの動物はどの隔離法を使っているか。記号と名称で答えなさい。

- (例) ①のa (ペアピット)、①のb (鉄格子)、①のc (金網)、①のd (ガラス)  
②のa (空堀)、②のb (水堀)、③ (心理柵)

## IV. それぞれの動物について①の「形態展示」で工夫しているところ

②の「行動展示」で工夫しているところ

③の「生態展示」で工夫しているところ

を簡条書きしなさい。

- (例) ガラスで仕切られているので間近に観察できる→「形態展示」  
ロープがはっており、木の間をぶらさがりながら移動する様子が見られる。  
→「行動展示」  
タイヤがあり、遊ぶ様子が観察できる→「行動展示」  
現地の樹木が植えられていて生息地の様子が分かる。→「生態展示」

動物名	III	IV
インドソウ	②のa 空堀	生態展示 背のふた、木がたかくある、手前の葉を 毛もこぼれかくなっている。
ホルネオオ ランウータ ン	②のb、①のd 水堀 柵	行動展示 形態展示 ロープが木や木がぶらさがり たいくしなおぼれかっている。
ボウシテナ ガザル	①のb 鉄格子	行動展示 たたくの木の音、取捨の音が聞こえている。 →とくは行動がみえる木がよい。
マレーバク	②のa ①のd 空堀 柵	生態展示 形態展示 手前の木がたかくある。ガラスの音がよく 聞こえる。おぼれかっている。
スマトラ トラ	②のb、①のd 水堀 ガラス	生態展示 形態展示 手前の木の音がよく聞こえる。ガラスの音がよく 聞こえる。
ウンピョウ	②のb、①のc 鉄格子 金網	行動展示 木がたかくある。現地で見せる動物がみえる。 木にのぼっている様子が見える。
フランソワ ルトン	①のb、①のc 鉄格子 金網	行動展示 多くの木がいろいろあって、動物の音を よく聞いている感じがする。
ドックラン グール	①のb、①のc 鉄格子 金網	行動展示 木がたかくある。動物の音がよく 聞こえる。
ダスキー ルトン	①のb、①のc 鉄格子 金網	行動展示 木の音がよく聞こえる。動物の音がよく 聞こえる。

<教師用>

生徒自らが積極的・意欲的に学習しており感心しました。また、そのような取り組みが出来るように教材研究やプリント作成をされていたのだと思います。最後のまとめは、完全に生徒になっており、「ふーん」と感心してしまいました。ありがとうございました。

動物園の中で授業を行うのはとても貴重な経験だと思いました。動物園の展示方法ということで普段と違った視点で見ているので生徒も積極的に取り組んでいる様子が見られました。ありがとうございました。

<生徒用>

○事前アンケート

1. 前回の授業であなたの観察態度はどうでしたか。  
積極的に観察した 12名      積極的に観察しなかった 0名
2. 前回の授業で、自分で観察した結果を考察し、理解しようとしていましたか。  
していた 12名      していなかった 0名
3. 前回の授業で、あなたの理解度はどうでしたか。  
よく分かった5名    分かった7名    少し分かった0名    分からなかった0名
4. 今までの授業で、説明はどうでしたか。  
よく分かった5名    分かった6名    少し分かった1名    分からなかった0名
5. 動物園の歴史や役割について理解していますか。  
よく理解している2名    理解している6名    少し理解している4名    理解していない0名
6. 動物園の動物の展示の手法・工夫について理解していますか。  
よく理解している2名    理解している7名    少し理解している3名    理解していない0名

○事後アンケート

1. 今回の授業で、あなたの観察態度はどうでしたか。  
積極的に観察した 12名      積極的に観察しなかった 0名
2. 今回の授業で、自分で観察した結果を考察し、理解しようとしていましたか。  
していた 12名      していなかった 0名
3. 今回の授業で、あなたの理解度はどうでしたか。  
よく分かった3名    分かった8名    少し分かった1名    分からなかった0名
4. 今回の授業で、説明はどうでしたか。  
よく分かった5名    分かった7名    少し分かった0名    分からなかった0名
5. よこはま動物園の、動物の展示の手法・工夫について理解できましたか。  
よく理解できた4名    理解できた6名    少し理解できた2名    理解できなかった0名

今回の授業の感想

- ・展示の工夫や、しかたなど動物全体を見て良く分かりました。とても楽しく見る事ができました。
- ・あまり時間がなくて、上手く書けなかったが、様々な動物の状況を見れたのでよかった。
- ・他の動物園などと違うなぁ、と違和感があったのですが、今回その理由がわかりました。
- ・展示方法を自分で見つけて紙に書いた。まわりの植物を見たり、アスレチックや池のある所を見たりして、環境がわかった。
- ・おもしろいけどズーラシアが広すぎて大変。
- ・動物園の中をモートとか普段見ないような所をみれた。
- ・今まで全然気にしたことなかったことなので、空堀があったことすら気づいていなかったりと、あたりまえだと思って見ていたことも、どれだけ工夫しているのかがわかり、とてもためになりました。
- ・あまりいつもと変わらなかった。
- ・あまりいつもとかわらなかった。動物がいつもより動いていた。
- ・ズーラシアは楽しい。

日 時 平成18年11月15日(水) 第1校時  
 場 所 武道場  
 対 象 5期生35名  
 指導者 中浜聡緒

## 1 単元名 武道(柔道)

## 2 学習のねらい

- (1) 自己の課題に合った練習を計画的に工夫しながら、互いに協力し、安全に楽しく活動する。
- (2) 基本動作や対人技能を理解し、得意技を身につけ、練習や試合の中で活用し、柔道を楽しむ。
- (3) 伝統的な行動の仕方を学習するとともに、互いに相手を尊重し、安全に留意し、勝負に対して公正な態度で試合を楽しむ。

## 1 学習のみちすじ(全13時間)

- (1) 学習過程  
略
- (2) 学習と指導  
略

## 4 本時の学習と指導

- (1) ねらい  
横方向系・転回系の投げ技を習得するとともに、それに対応する受け身を習得する。
- (2) 準備  
柔道衣 帯
- (3) 展開

段階	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評価規準	評価方法
はじめ 25分	1 集合・あいさつ・出欠確認 健康状態確認 2 準備運動・本時の目標、練習確認 3 安全について話をきく	○全体で行動させる ○出席、健康状態を把握する ○事故防止に留意させる ○機敏に行動させる ○目標をしっかり理解させる	略 シラス参照	行動観察
な か 55分	4 前後方向系の投げ技とそれに対応する身の安全な処理の方法を習得する i 大内刈り・小内刈りと後ろ受け身 単独→相手に対応 遅い動き→早い動き 一列一斉の動き→自由な動き 5 転回系の投げ技とそれに対応する身の安全な処理の方法を習得する i ひざ車と転回系の受け身 単独→相手に対応 遅い動き→早い動き 一列一斉の動き→自由な動き 6 転回系の投げ技とそれに対応する身の安全な処理の方法を習得する i 大腰と転回系の受け身 単独→相手に対応 遅い動き→早い動き 一列一斉の動き→自由な動き	○全体の練習から個々の練習が導き出されるみちすじを説明する ○基本的な形がしっかりとつくられているか観察し、また実際に技を受けている生徒にも、そのことをお互い指摘させるようにする。 ○約束練習を十分に理解して相手が掛けやすいように対応しているか観察し、助言する。 ○初めと最後の礼がしっかりと行われているか観察、指導する。 ○運動の特性を十分に理解して正しく行われているか観察し、必要があれば助言する。 ○積極的に練習が行われているか観察し、適宜助言する。	略 シラス参照	行動観察
まとめ 10分	7 集合、整理運動、事故者の確認 8 挨拶、後片づけ	○全体を把握し、ケガ等の確認を行う。 ○本時の評価と、次時の予告、後かたづけの確認をする。	略 シラス参照	行動観察

# 2006年度 保健体育科 アンケート (結果)

日時 平成18年11月15日(水) 1校時  
科目 体育  
種目 柔道  
クラス Ic (1年次)

## 生徒用アンケート(回答 35名)

### <授業前>

#### 1. 柔道は以前から好きである

	(名)	%
非常に当てはまる	4	11.4
まあまあ当てはまる	12	34.2
あまり当てはまらない	13	37.1
全く当てはまらない	6	17.1

#### 2. 柔道の授業に期待すること(複数回答可)

技を覚えたい	22	62.9
強くなりたい	9	25.7
身体を鍛えたい	11	31.4
その他	3	(何もやりたくない、楽しみたい、特になし)

#### 3. いつも自己の課題発見に努め、解決を図るように努力している

	(名)	%
非常に当てはまる	5	14.3
まあまあ当てはまる	16	45.7
あまり当てはまらない	9	25.7
全く当てはまらない	5	14.3

#### 4. いつも仲間と協力し、安全に留意して授業に参加している

	(名)	%
非常に当てはまる	9	25.7
まあまあ当てはまる	18	51.4
あまり当てはまらない	5	14.3
全く当てはまらない	2	5.7
無回答	1	

### <授業後>

#### 1. 今回の授業で柔道が好きになった

	(名)	%
非常に当てはまる	4	11.4
まあまあ当てはまる	11	31.4
あまり当てはまらない	12	34.3
全く当てはまらない	5	14.3
無回答	3	

#### 2. 授業に充実感・達成感があった

	(名)	%
非常に当てはまる	7	20.0
まあまあ当てはまる	14	40.0
あまり当てはまらない	6	17.1
全く当てはまらない	6	17.1
無回答	2	

3. 特に充実感・達成感を感じた内容(複数回答可)

技の習得	26
体力の強化	6
その他	4

4. 今回の授業は興味・関心を持って積極的に取り組み努力した

	(名)	%
非常に当てはまる	12	34.3
まあまあ当てはまる	14	40.0
あまり当てはまらない	5	14.3
全く当てはまらない	3	8.6
無回答	1	

5. 自己の課題発見・解決に努めた

	(名)	%
非常に当てはまる	7	20.0
まあまあ当てはまる	13	37.1
あまり当てはまらない	11	31.4
全く当てはまらない	3	8.6
無回答	1	

6. 仲間と協力しながら練習を進めることができた

	(名)	%
非常に当てはまる	16	45.7
まあまあ当てはまる	14	40.0
あまり当てはまらない	2	5.7
全く当てはまらない	2	5.7
無回答	1	

7. その他、この授業について思うことがあれば記入してください

楽しい・痛かった・痛いけど楽しい・タフになれそう・なかなかうまくならないけど楽しい  
とてもわかりやすい先生・男女で組んでみたら?・試合がやりたい

## 2006年度 保健体育科研究授業アンケート(分析)

【生徒用】 35名

○テーマ： 充実感 学習への取り組み

### 『充実感』について

授業終了後のアンケートから「充実感・達成感があった」と答えている生徒が60%おり、今回の授業内容は概ね良好であったと考えられる。また、具体的に柔道の授業に期待している技の習得についても、授業後に特に充実感・達成感を感じている生徒が多数いることから、満足な内容であったと考えられる。

ただ、『生徒による授業評価に関わるアンケート』結果と比較すると、『充実感』の項目では86%の生徒が「満足・まあまあ満足」と解答しているのに対し、今回の授業では60%と低い数値となっている。これは柔道の授業がダンスとの二者択一選択によるものであり、中には消極的選択により柔道を選択、あるいはもともと柔道には興味・関心を示さない生徒もいたためではないかと思われる。

### 『学習への取り組み』について

今回のアンケートでは「積極的に取り組み努力した」74%、「仲間と協力しながら進めることが出来た」85%という数字からも分かるように、ほとんどの生徒が積極的に授業に取り組んでいたことがうかがえる。授業前アンケートから「いつも課題発見に努めている」と答えている生徒が60%、授業後には57%とほぼ変化はなく、学習に取り組む姿勢についても普段と変わりなく、概ね良好であったと考えられる。

『生徒による授業評価に関わるアンケート』では88%の生徒が『学習への取り組み』の項目において「当てはまる・まあまあ当てはまる」と答えている。これは、『充実感』の項と同様に、柔道が選択種目であることに起因しているものと考えられる。

## 教員用アンケート(回答3名)

### 1. 教え方や教材を工夫し、よく準備をしている

非常に当てはまる	3
まあまあ当てはまる	0
あまり当てはまらない	0
全く当てはまらない	0

### 2. 授業は系統立てて(順序を追って)進められている

非常に当てはまる	3
まあまあ当てはまる	0
あまり当てはまらない	0
全く当てはまらない	0

### 3. 説明や指示は明らかですっきりしている

非常に当てはまる	3
まあまあ当てはまる	0
あまり当てはまらない	0
全く当てはまらない	0

### 4. 生徒一人ひとりと接し、生徒の発言も大切にしながら授業を進めている

非常に当てはまる	3
まあまあ当てはまる	0
あまり当てはまらない	0
全く当てはまらない	0

### 5. テーマに沿って授業を進めており、生徒が満足感・充実感を持っている

非常に当てはまる	3
まあまあ当てはまる	0
あまり当てはまらない	0
全く当てはまらない	0

### 6. この授業から参考になった点などがあればお書き下さい

- ・日頃眠ったような生徒が生き生き活動していた。
- ・座学の授業でも生徒が進んで取り組むような工夫ができないものか。
- ・生徒たちが場面々々できちんと取り組んでおり、日頃の指導も行き届いているのだろうと思った。
- ・生徒一人ひとりとコミュニケーションをとりながら授業を行うことの大切さを感じた。
- ・常に全体を見回しながら個々にも指導していかなければならないところが大変そうだった。

平成18年11月8日(水)4限  
 科目名:音楽 5期生 27名  
 内容:箏で「さくら」を弾く。  
 三重奏アカペラで「トンボのめがね」「シャボン玉」を歌う

(1)本時のねらい  
 生徒一人ひとりに目を向け丁寧に指導する。  
 授業の流れ、目標などわかりやすく説明する。  
 (2)本時の生徒の目標  
 三重唱……………各パートの音を正確に取る。  
 箏……………さくらさくら、前奏から後奏の前まで弾けるようにする。

(a)音楽科  
 (6)芸術科

(3)本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点(方法)
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>出席をとる。</li> <li>アンケートに記入する。</li> <li>写譜をする。</li> <li>発表の日程について確認する。</li> <li>本時の流れ、達成目標を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時(研究授業)の主旨説明を理解する。</li> <li>写譜をさせ落ち着かせる。</li> <li>楽譜を見て曲を想像させる。</li> <li>今後の日程について説明をし、何をすべきか考えさせる。</li> <li>本時の流れ、達成目標を示し自分の動きについて考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>写譜の時間は机間巡視し、その日の一人ひとりの状態をよく観察する。</li> <li>説明は冊子を使い目と耳を使って確認させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心・意欲・態度</li> <li>教師の話に耳を傾け、集中して聞くことができる。丁寧に写譜している。</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>箏の基本奏法について確認する。箏でさくらさくらを後奏の前まで練習する。押し手、前奏の弾き方の復習をする。</li> <li>箏の自主練習を設け、その間三重唱のパート練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>箏の席での座り方爪の角度など基本を毎時間確認し、促す。押し手の仕方を復習し確認させる。</li> <li>三重唱パート練習では音が取れているか把握するためなるべく近くで歌わせる。難しいところを取り出し音とタイミングを覚えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>しっかり集中させて指導するように心掛ける。</li> <li>小さい達成目標をいくつか作り提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心・意欲・態度</li> <li>箏や爪を丁寧に扱うことができる。集中して話を聞くことができる。</li> <li>芸術的な感受や表現の工夫</li> <li>自主練習の時間、自分の目標をもち工夫することができる。</li> <li>創造的な技能</li> <li>より正確に音を把握し、各パートの旋律を自分のものにできる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>三重唱のあわせをする。</li> <li>振り返りシートに今日の授業について書く。</li> <li>事後アンケートを記入する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の授業をもとに、今後自分が何をすべきか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>音楽は練習の積み重ねが大切だということを伝える。みんなが楽しく歌うためにはどうしたらよいのか考えさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>関心・意欲・態度</li> <li>教師の話に耳を傾け、集中して聞くことができる。</li> <li>芸術的な感受や表現の工夫</li> <li>あわせ練習の時間、楽しく歌える。自分なりにつられないように工夫することができる。</li> </ul>

<<生徒事前アンケート>>

1. 前回の授業で、あなたは積極的に授業に参加していましたか？  
はい・・・18名      いいえ・・・3名
2. 前回の授業で、自分で内容を「理解しよう」としていましたか？  
はい・・・20名      いいえ・・・1名
3. 前回までの授業で、説明はどうでしたか？  
よく分かる...7名    わかる...7名    少し分かる...6名    全く分からない...1名
4. 前回までの授業で、自分の理解度はどうでしたか？  
よく理解できた...5名    理解できた...8名    少し理解できた...7名    全く理解できない...1名

<<生徒事後アンケート>>

1. 今回の授業で、あなたは積極的に授業に参加していましたか？  
はい・・・20名      いいえ・・・1名
2. 今回の授業で、自分で内容を「理解しよう」としていましたか？  
はい・・・20名      いいえ・・・1名
3. 前回までの授業で、説明はどうでしたか？  
よく分かる...10名    わかる...8名    少し分かる...2名    全く分からない...1名
4. 前回までの授業で、自分の理解度はどうでしたか？  
よく理解できた...10名    理解できた...8名    少し理解できた...2名    全く理解できない...1名

<<教員アンケート>>

- ・ 生徒が生き生きと活動していて、とても良かったです。
- ・ 生徒が楽しそうに授業を受けているのに感心しました。
- ・ 一人での実習の授業の進め方として大変参考になりました。
- ・ 写譜をさせると、とても静かになりました。集中させたいときに効果的だと思います。
- ・ 生徒にやるべき事をきちんと指示し、飽きないように工夫がされていると感じました。
- ・ 90分という長丁場を様々なことに取り組みさせることで飽きさせずに進める工夫が随所に見られました。

美術研究授業 平成18年11月8日(水)3時間目  
 科目名:美術 (15名 4期生:11名 3期生:4名)  
 内容:皮工芸 ~自由制作~

本時の展開 ~全10回(20H)のうちの6回目(12H)~

(1)本時の目標

- ・研究授業の主旨を説明しその意図を理解する。事前、事後のアンケートに答える。
- ・自由制作で作品をデザインするときに、共通の条件を忘れないようにする。
- ・「皮でどのようなものが作れるのか」を考えさせる。
- ・制作する手順をよく考え、完成に向けて努力する。

(2)本時の指導過程

過程	学習活動	指導内容	指導上の留意点	評価の観点(方法)
導入	今回の研究授業の主旨を説明し、事前アンケートを行う。今までも強調してきた「彩色すること」「縫製すること」の2点を守り、作品を制作する。残りの授業回数を知らせる。	研究授業の主旨を説明し、事前アンケートを行う。すでに自由制作に入っているが、もう一度共通の守る条件を確認する。残り時間数を考え、時間内で出来上がるよう、計画して作業する。	研究授業の主旨を理解し、事前アンケートに答えるように指導する。「彩色すること」「縫製すること」を強調し、デザインをよく考えさせる。	関心・意欲・態度 教師の話に耳を傾け、集中して聞くことができる。
展開	作品を制作する。	生徒によって作業の進み具合が異なるため、個々の生徒に合わせて指導する。	実際に作業に入る前に、型紙が間違っていないか、仮制作をする。作業が進んでいる生徒は完成に向けて、制作を続ける。個々の内容に合わせて指導する。	関心・意欲・態度 ・皮工芸に関心を持ち、制作することができる。 芸術的な感受や表現の工夫 ・制作したいものを明確にし、スケッチをし、制作することができる。 創造的な技能 ・道具の使い方、作業する手順をよく理解している。
まとめ	片付けをする。振り返りシートに考えたこと、気づいたことなど具体的に書かせる。事後アンケートを行う。	今日の授業をもとに、次週の作業内容を考えるよう促す。事後アンケートを行う。	片づけをきちんとする。振り返りシートを記入し次週に生かすようにする。事後アンケートを行う。	関心・意欲・態度 振り返りシートをきちんと記入できる。

<<生徒事前アンケート>>

1. 前回の授業で、あなたは積極的に授業に参加していましたか？  
はい・・・8名      いいえ・・・1名
  2. 前回の授業で、自分で内容を「理解しよう」としていましたか？  
はい・・・9名      いいえ・・・0名
  3. 前回までの授業で、説明はどうでしたか？  
よく分かる...0名    わかる...9名    少し分かる...0名    全く分からない...0名
- 前回までの授業で、自分の理解度はどうでしたか？  
よく理解できた...0名    理解できた...9名    少し理解できた・全く理解できない...0名

<<生徒事後アンケート>>

1. 今回の授業で、あなたは積極的に授業に参加していましたか？  
はい・・・8名      いいえ・・・0名
2. 今回の授業で、自分で内容を「理解しよう」としていましたか？  
はい・・・8名      いいえ・・・0名
3. 前回までの授業で、説明はどうでしたか？  
よく分かる...3名    わかる...5名    少し分かる...0名    全く分からない...0名
4. 前回までの授業で、自分の理解度はどうでしたか？  
よく理解できた...3名    理解できた...5名    少し理解できた・全く理解できない...0名

<<教員アンケート>>

- ・ 一人ひとり異なる課題を進めて行くには TT が必要なのかなと思いました。
- ・ 座学の先生方にもっと理解してもらう必要があると思いました。
- ・ 13人の生徒が五つの作業机に別れ、和やかな雰囲気の中で学習が行われており、とても好ましく感じました。
- ・ 型紙・模様押し・皮を縫うなどの諸行程が各生徒の取り組み状況に対応できるようになっていて素晴らしいと思いました。
- ・ 生徒の興味・関心が高いと思われる題材が選ばれており、また、財布や筆箱などは日常の必需品なので、学習成果も期待できそうです。

I Date : November 10, 2006 4<sup>th</sup> period

II Class : English I - d ( 7 boys and 14 girls)

III Text : VISTA English Series I (SANSEIDO)

LESSON 8 : Oki, an Ainu Musician

IV Allotment : 1<sup>st</sup> period : p.56 (This period) 2<sup>nd</sup> period: pp.57-58 3<sup>rd</sup> period: Grammar & Practice

V Aims of This Period: The students will :

この授業のねらい

- |  |                      |
|--|----------------------|
| (1) review "To infinitive" and "that-clause."  | (1) 不定詞と that 節の復習   |
| (2) understand the content of "Oki, an Ainu Musician"                                      | (2) 教科書のレッスン 8 の内容理解 |
| (3) learn more about Ainu culture  | (3) アイヌについて知る        |
| (4) understand the lyrics and know how the words are pronounced by listening to the music. | (4) 歌詞の聞き取り          |

VI Theme of This Period: How to make students more interested in English  
課題 (生徒がより熱心に取り組める授業→教材などの工夫)

VII Teaching Procedure:

PROCEDURE (授業の流れ)	TIME (m.)	ACTIVITIES		NOTES
		Teacher (指導)	Student(s) (生徒の活動)	
Greeting and roll call	2	Check the ID card.	Show the ID card.	
Warm-up	3	Talk about a current topic. (その日の話題について話し合う)		
Review (復習) Substitution practice (to-inf. and that-clause)	10	Show Ss three sentences on the card. (生徒にカードをみせる) Have Ss repeat them and do the substitution practice. (リピートさせて置き換え練習をさせる)	Do the practice. (練習)	Flash cards.
Presentation of the new material (新しい教材への導入)  New words and the passage (新出単語・語句・本文)  Understanding 読解 Grammar 文法  Reading QA for Comprehension 理解を深める QA	40	Give oral introduction using the music and the picture in the text. 音楽と教科書の写真を使った口頭による導入 Give Ss a worksheet and write new words and the passage on the blackboard. Explain meaning and the grammar of this passage. 解説 Read the text. Ask Ss some questions about this passage. 1st Orally, 2nd in paper.	Listen to the CD and Teacher's talk. CDと先生の話聞く Answer the Teacher's questions. 先生の問いに答える Listen to the CD. Look up new words in the dictionary. 辞書で調べる Listen and take notes. 聞いてノートをとる  Repeat after the teacher. Answer the T's questions orally. Fill in the blanks of QA sentences.	CD  Worksheet① Dictionary  Worksheet②
Understanding 理解 Ainu culture アイヌ文化	5	Give Ss handouts about Ainu culture and read 資料配布	Listen and read.	Handout (Ainu culture)
Listening (music) 聞き取り	20	Give Ss a worksheet. Explain about the lyrics 歌詞の説明  Collect the worksheets.回収	Look at the lyrics. 歌詞を見る Listen to the music carefully and fill in the blanks. 聞き取り Exchange the handout with their partners and check the answers. Hand in their worksheets.	MD Worksheet③  Pair work
-If the time permits- (時間があれば) Grammar ( Game & Quiz) (Introduction of the present perfect tense)	5	Have Ss review the conjugation. Introduce the present perfect tense.動詞の活用の復習 ・現在完了の導入	Review the conjugation by doing a short game. Listen to the explanation and take note. ゲームによる動詞の活用の復習	
Wrap-up	5	Have Ss complete the evaluation form.	Complete the evaluation form. (授業についてのアンケートを行う)	Evaluation form

## 研究授業前後生徒向けアンケートのまとめ 【英語科】

英語科として「生徒による授業評価」の結果を教科ごとに分析した結果

→ 授業の充実感、生徒主体の授業、説明のわかりやすさ、生徒への接し方

その中から特に「授業の充足感」を取り上げ、課題として「生徒がより熱心に取り組める授業」と設定し、特に具体的には「教材などの工夫」を意識し、教案を考えました。

アンケートの総数は、19でしたが、複数回答もあるので、下の（ ）内の数字とは一致していません

(事前) 生徒数 (19)

Q1・・・現時点での授業の理解度

- ・理解できる (10)
- ・まあまあ、何となく、微妙 (4)
- ・少し遅れているところがある (1)
- ・文法があまりわからない (1)
- ・少ししか理解できない (3)
- ・けっこう休んでいるから何とも言えない (1)

Q2・・・この授業についての要望

- ・特になし、不満もない (6)
- ・もう少しゆっくりやってほしい (3)
- ・洋楽をもっと学びたい (2)
- ・宿題・プリントをもっとだしてほしい (3)
- ・プリントとノートの使い分けがわからない (1)
- ・わいわいやりたい、静か過ぎ (1)
- ・隣の人とどうとかはやりたくない (1)
- ・単語テストを金曜日にしてほしい (1)

(事後) 生徒数 (20)

Q1・・・今日の授業は熱心に取り組めたか

- ・はい (15)
- ・いいえ (3)
- ・どちらとも言えない (2)

※「はい」の理由

- ・いつもより発言できた (3)
- ・わかりやすかったから (3)
- ・集中して聞けたから (2)
- ・英語の授業が好きだから (1)
- ・教材 (英文の内容) に興味をもてたから (1)
- ・楽しかった (1)
- ・後ろに先生たちがいたから (1)
- ・いつもどおり取り組めた (1)

※「いいえ」の理由

- ・疲れていた、眠かった (3)

※「どちらとも言えない」の理由

- ・始めは集中していたが最後の方は寝てしまった (1)

Q2・・・説明のスピードはどうだったか

- ・速い (8)
- ・ちょうど良い (9)
- ・遅い (0)

Q3・・・今日の授業でわかりにくいところはあったか

- ・ない (10)
- ・形式主語 (1)
- ・SとかVとか (1)
- ・下の方に書かれると見づらい (1)
- ・CD (1)
- ・やり方がいまいち (1)

Q4・・・今日の授業で良かった点は何か

- ・ 洋楽（10）
- ・ 黒板に書いた英文の説明がわかりやすかった（3）
- ・ 重点的に触れたところ（1）
- ・ 授業の速さ（1）
- ・ 音楽・音読など取り混ぜていろいろあったから飽きなかった（1）

【当日の授業展開担当者によるまとめ】

教科でまとめた「生徒による授業評価」と、当該のクラスの生徒の評価とは、どの程度重なっているかは、わからないので、この授業についての事前アンケートで、生徒の意見も参考にしながら授業を組み立ててみました。事後のアンケートをみると、「熱心に取り組めた」生徒は、数字上は15ということで、いつもとほとんど同じようです。「洋楽」が良かったが8でしたが、歌については、私自身がすごく好きで、けっこう気合を入れて、選曲・教材作成をやります。今回は時間の関係で dictation を少しだけやりましたが、今後も教材作成の工夫ということで、力を入れていくつもりです。補助教材は、自分の得意分野のものをとりあげたりすると生徒にも伝わる感じがします。（歌については、話題性を考慮に入れながら、発音・内容を検討し、なおかつ古いものは使わないという条件で決めています）説明のスピードが「速い」が8ありましたが、ある程度の速度でやらないとリズムかでない部分もあるのでついてきてほしいというのが私の本音ですが、様子を見ながらもっとゆっくり説明することも必要かなと思いました。

私自身としては、別のイメージで研究授業を考えていたのですが、うまくまとまらなくて日ごろの授業とあまり変わりのない組み立てになりました。今後の課題としては、「もっと生徒が発言したり、体を動かしたり、ペアワークありグループワークありゲームあり、多種類のプラクティスあり」の生徒がよりアクティブになれる授業を考えています。

研究授業ということで、気を使いましたが、自分の授業を振り返るという点でいい経験だったと思います。いろいろ論議するよりは、日ごろから気楽にオープンに実際の授業を見せ合うことが、授業へ大きなインパクトにつながるということを実感しました。

【他の先生のコメント】

- ・ アイヌ語が興味深かった。
- ・ ほとんどの生徒が（後ろから見ると）熱心に取り組んでいるように見えました。よく準備されているのだろうと思いました。
- ・ Flash Cards が良かった
- ・ 説明は明確
- ・ 本文の説明は細かい？
- ・ 生徒に手を上げさせるのはよいですね

## 授業計画書(研究授業)

神奈川県立横浜旭陵高等学校

氏名	河辺 由美子	教科名	家庭
観察日	11月 6日(月)	校時	前半・後半
科目名	家庭基礎	場所	生活福祉実習室
在籍	22名(5期生19名・4期生2名・3期生1名・ 期生 名)		

大単元名	家族の生活と健康 ～ 食生活の管理と健康	単元全体の時間数 14時間 (90分を2時間として)
本時の単元	食事とつくりかた	11, 12 時間目
本時の内容	1. 調理実習(郷土料理)の説明. 2. 南大立と立ててみよう	
本時のねらい	1. 野菜の切り方、小麦粉の調理、郷土料理について、次回の実習で実践することを確認する。 2. エネルギーや食品群別摂取量の目安に配慮した南大立を作成する。	
添付資料	プリント 教科書コピー 問題集コピー その他	

特に工夫した点、授業の中で心がけていること

授業観察する上でみてほしいポイント、等 その他

カードを使って、生徒が主体的に授業に取り組む工夫をした。また、班毎に協力を、全部の班が南大立を完成させる工夫をした。

生徒による授業評価にかかわる研究授業の報告

- 1 指導案 別紙
- 2 生徒に対する事前事後アンケート用紙とその集計・分析

### 家庭科 授業アンケート

回答欄の 0 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可：○、● / 不可：□、◇、◎、①]

番号					氏名
----	--	--	--	--	----

前回までと今日行った授業について質問します。  
 もっとも当てはまる番号を塗りつぶしてください。  
 評価内容や記述内容があなたの成績に影響することはありません。

④:非常に当てはまる ③:まあまあ当てはまる ②:あまり当てはまらない ①:全く当てはまらない

		前回まで				今日			
1	授業に充実感・達成感がある	④	③	②	①	④	③	②	①
		3 1 0 5				4 8 6			
2	先生が教えるだけでなく、生徒が主体となった授業展開も工夫されている	④	③	②	①	④	③	②	①
		2 1 3 3				2 1 3 3			
3	先生の説明や指示は明らかですっきりしている	④	③	②	①	④	③	②	①
		3 1 2 3				3 1 2 3			

#### 分析

事前と事後のアンケートは変化がみられる内容ではなかった。  
 今回の学習内容が生徒一人一人の活動よりも、グループ学習が主体になったため、  
 グループの人間関係が授業の効果を支配している様子もあり、本来の研究テーマに加え、  
 新たな問題も浮上してきた。

### 3 教員アンケート用紙とその集計・分析

#### 家庭科 研究授業アンケート

本日は、参観ありがとうございました。

回答欄の 0 を鉛筆やボールペンなどで塗りつぶしてください。[可：●、● / 不可：○、○、○、○]

④:非常に当てはまる ③:まあまあ当てはまる ②:あまり当てはまらない ①:全く当てはまらない

- |   |                                   |   |   |   |   |
|---|-----------------------------------|---|---|---|---|
| 1 | 先生が教えるだけでなく、生徒が主体となった授業展開も工夫されている | ④ | ③ | ② | ① |
| 2 | 先生の説明や指示は明らかですっきりしている             | ④ | ③ | ② | ① |

今回の研究授業に参観された他教科の方は2名であった。  
他教科からみれば、生徒は活動的に見えたようである。

#### 4 指導案に対しての当日の進行具合

次週が芸術鑑賞で授業なし、その次の週に初めての調理実習を計画していたため、調理実習の事前指導に計画より多くの時間を費やしてしまった。そのためカードを使った授業展開のまとめの部分で時間が不足したようである。

#### 5 得られた成果

今回の献立を立てさせるという学習内容は、食生活分野の指導の総まとめ的な高度な内容を含んでいる。しかし、献立作成カードを用いることで、ビジュアルな授業の展開、具体的なイメージを生徒が持てるというメリットがある。そのため生徒の意欲はたかまり、手を使い、言葉を発し楽しく学び、効果的な学習ができると確信を持つことができた。

また、グループ学習をすることで、お互いに自分の食生活を話しながら、カードを選び決定していく作業を通して、座学では得られない、コミュニケーション能力、協調性など多くを学ぶ機会になったようである。

#### 6 その他

最近の生徒は皆の前で発表する事はいやではなく、むしろ得意なことのひとつであると思われるので、家庭科のホームプロジェクトの発表を取り入れた授業を積極的にすすめていきたい。家庭科のホームプロジェクトは生徒が主体的に学習出来るものであるから。

## 2006年度 情報科学研究授業報告

1. 科目 情報A
2. 日時 2006年11月14日2校時
3. 指導案

教科担当教諭 : 海部弘・山下英男

ねらい

生徒がより授業に積極的に主体的に参加できるような授業形態を考える。

### 導入(15分)

今日の授業の説明

ファイル読み込み

該当項目に挙手させる(あまり深く考えさせない)

### 展開(60分)

データからエクセルファイルを完成させる(15分)

グラフを作成させる(5分)

ワードファイルを完成させる。(40分)

### まとめ(15分)

プレゼンテーションソフトの紹介

### 配布プリント

#### 情報A <<課題プリント16>>

1. 課題フォルダから「課題30」を読み込んで、自分のフォルダに保存する。
2. 睡眠時間の調査をするので、該当時間に挙手をする。それを[3]に入力する。
3. 携帯の会社調べをするので挙手をする。それを[4]に入力する。
4. 昨日のメール発信数調査をするので該当回数に挙手をする。それを[5]に入力する。
5. 自分の24時間を考えて、[1]に入力する。
6. [1]から合計時間を考えて、[2]に入力する。
7. [2]から円グラフを作成する。時間と項目が出るように表示する。
8. 睡眠時間の平均を算出する。  
Hint: (時間×人数+時間×人数+・・・+時間×人数)÷すべての人数
9. [4]から円グラフを作成する。自分の所有している会社が目立つように工夫する。
10. 上書き保存する。
11. 課題フォルダから「課題31」を読み込んで、自分のフォルダに保存する。
12. 指示に従って「課題31」を完成させる。
13. 字に色を付けたり、クリップアートや、ワードアートを積極的に利用する。
14. 上書き保存。

#### 4. 生徒向け事前事後アンケート

##### 1. 情報Aの授業の取り組み状況。

今日の授業前までは = 4. 良い 3. やや良い 2. あまり良くない 1. 良くない

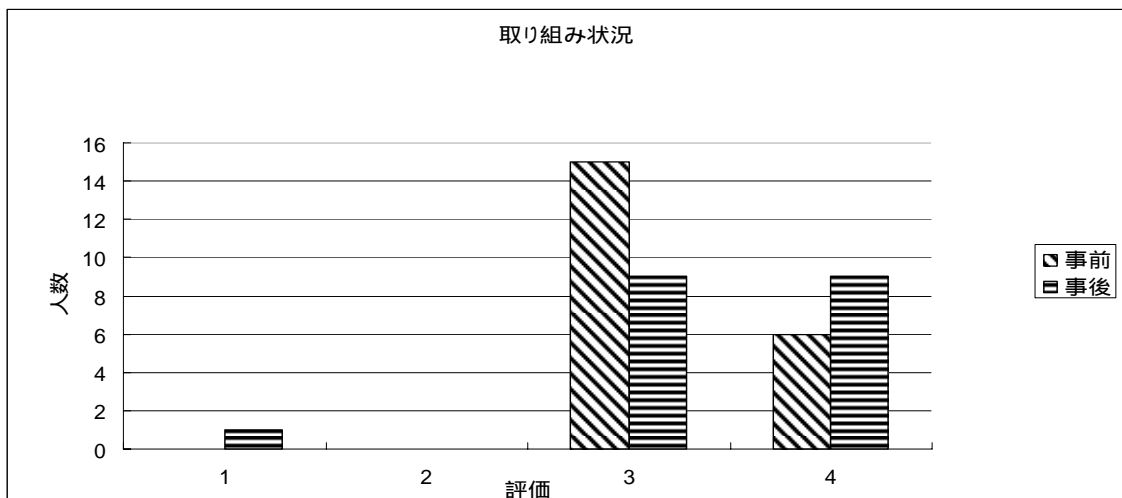
今日の授業について = 4. 良い 3. やや良い 2. あまり良くない 1. 良くない

2. 先生の指示されたことだけでなく、自分として課題への工夫をすること

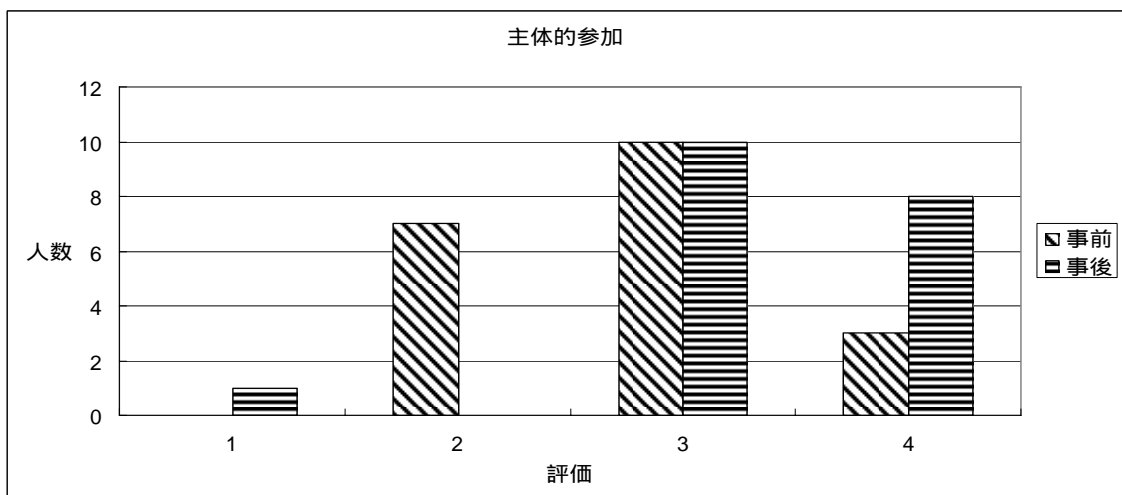
今日の授業前までは = 4. 良い 3. やや良い 2. あまり良くない 1. 良くない

今日の授業について = 4. 良い 3. やや良い 2. あまり良くない 1. 良くない

##### 5. 生徒アンケートの集計



授業前までは「やや良い」と評価したものが一番多かったが、授業後では「良い」が増加した。反面「良くない」と判断したものが1名おり、この授業になじまなかったものと思われる。



主体的な授業への参加については、授業前は「あまり良くない」と判断したものが7人もいたが、授業後は0になり、大きな成果があった。

## 6. 生徒の感想

- ・課題を自分でやったのでやりやすかったです
  - ・今日はグラフを作ったり表を作ったりと、自力でやるような授業でした。比較的できたのですが、やはり戸惑った所がありました。大変だったけど楽しかったです！
  - ・昨日の授業はいろんなアンケートに答えて、その結果を円グラフにする...って事を始めから全て自分でやるっていうのをやりました。  
海部先生がJ-PHONEをまだ使ってたのにはビックリしました！笑笑”
  - ・火曜日の授業でやったのは、平均睡眠時間と昨日のメール発信数、一日の行動などを調査、作成した表を基に円グラフを作成しました。結構楽しく授業に望めました。
  - ・このまえは、どっちかと言うと「自分でやる」って感じだった。一つ一つ説明するんじゃなくて、いままでやってきた事をやった。こう言う授業もいいなと思った。
  - ・今回の授業は自分で少し工夫してやる作業でいつもとはちょっと違って楽しかったです。でも集中しすぎて疲れました(。)
  - ・携帯会社調べとかやってグラフを作るのが楽しかったです。
  - ・今回のような形式で授業を展開するのがいいと思います。その方がやる気が出るからです(笑)次回の授業は真面目に頑張ります!!
- 凄く楽しかったからまたこういう授業をしたいなぁ～と思いました
- ・今回の授業では、だいたいが前回の授業の復習な感じでエクセルでグラフを作ってワードに貼り付けることをやったりしました。あとはみんなの携帯会社を調べてグラフに変えていったり...そしてみんなの起床時間などおもしろかったです
  - ・今回はこのクラスのみなが何のケータイを使っているかや睡眠時間を知れて参考になりました。またこのような授業をやりたいと思いました。

## 7. 教員の感想

元々が実習で、生徒主体とは思っていたが、PCにさわる以外にも興味の持たせ方・引きつけ方等、とても参考になった。

## 8. まとめ

前期の「生徒による授業評価」では全般的にはよい評価をいただいていたが、「授業への主体的な参加」が相対的には低めの評価になっていた。そのため、そこを改善する授業形態を考えた。

コンピュータを主体的に活用する授業なので、「主体的な参加」が低いことは以外だった。しかし自分の授業を振り返ってみると、手取り足取り細々と指導している。

「ここはアンダーラインを引きましょう。太字にしましょう。フォントは で」という風に。これがいけなかったかもしれない。

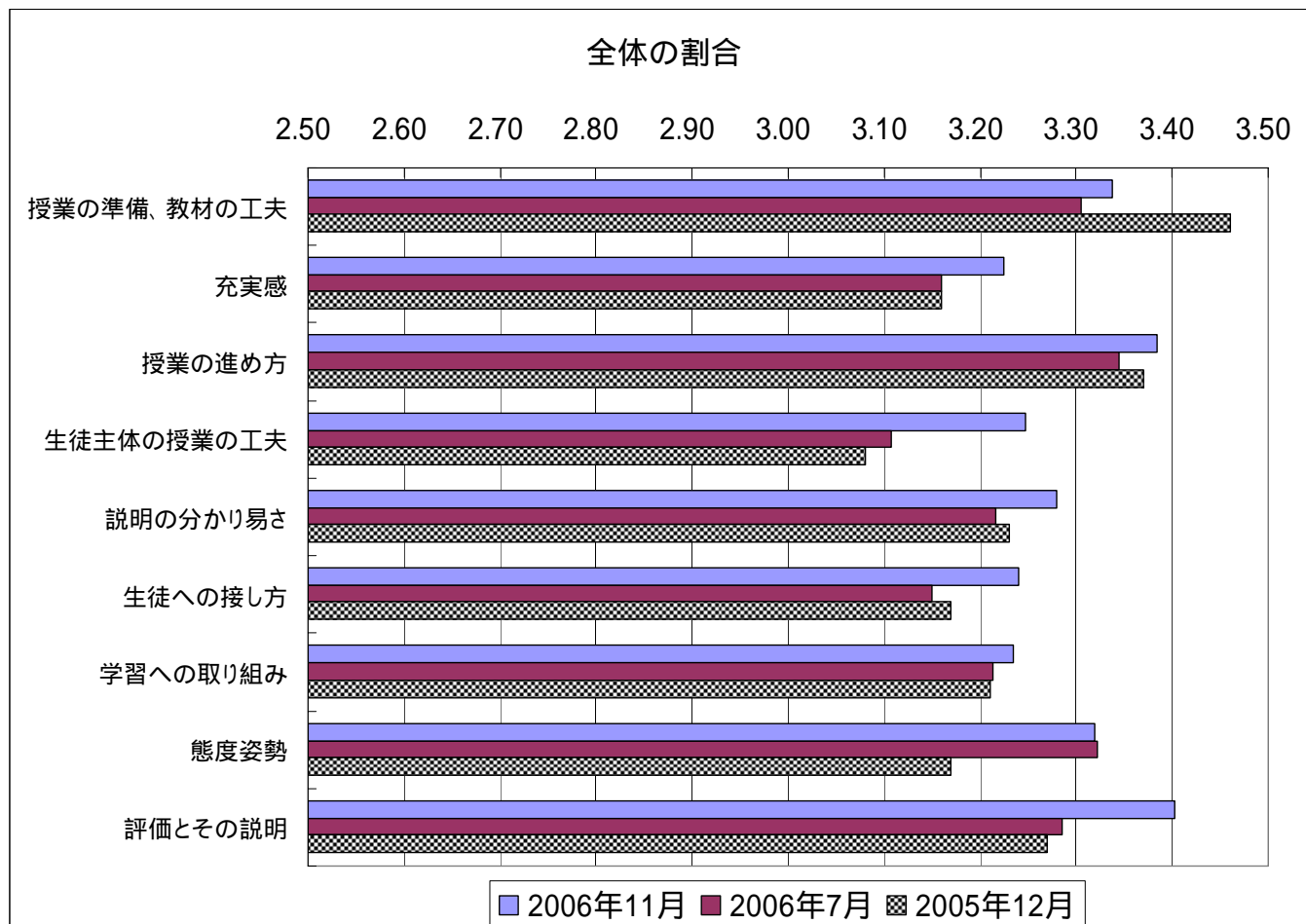
7月にはワープロで学習したことをふまえてサマーステージのチラシを作る作業をさせた。このときは生徒は楽しそうに思い思いのチラシを作っていた。

このときを思い出して、表計算ソフトで身近な話題を考えてグラフ化してワープロソフトに貼り付ける課題を設定した。

結果としては目的はほぼ達成できたと思う。しかし今回は表計算のまとめとして授業設定したため、生徒はいろいろな技(ワザ)を使って自由にできたと思うが、普通の授業で常にこの目的でやるのは非常に苦しい。が、「生徒にやらせる」のではなく「生徒が気持ちよく参加できる」様な授業形態を考えることが可能なので、その気持ちを持って日々の授業に望みたい。

・ 数字的な集約

非常に当てはまるを「4」まあまあ当てはまるを「3」あまり当てはまらない「2」全く当てはまらない「1」として、人数を勘案して平均を算出してみる。



一番高い評価を得たのは、「評価とその説明」である。成績の評価については今年から観点別評価を導入した。教科ごとに定められた3から5の観点別にABCの3段階で評価を下し、それに基づいて5段階の評価を算出した。新しい評価方法であるので、教員からの十分な説明があったものと思う。次に高かったものは前期に引き続き「授業の進め方」である。単位制高校の基本である「授業」の進め方が理解されている現れかと思う。7月の評価から大きく数値が上がったのは「生徒主体の授業の工夫」と「生徒への接し方」である。「生徒主体の授業の工夫」については前期では低い評価を下されていた。そこで全校的な取り組みとしてこのポイントを改善する方向で研究授業を各教科で取り組んだ。その結果を研究授業にとどまらず、他の授業に応用するようお願いした。その結果がこのような数値として現れたように思う。「生徒への接し方」についても前期に低かった項目である。特に重点項目とはしなかったが、職員一人ひとりの少しずつの心がけが、このような評価につながったと思う。全般的に高い評価をいただいており特に問題はないが、比較的「充実感」が低めの数値となった。具体的には「授業に充実感・達成感がある」という質問項目である。確かに生徒アンケートを見ると「もう少し高度な内容に触れて欲しい」という意見が少なからずある。もちろん教員としては難易度の高い問題を取り上げるのは簡単であるが、それでは生徒の大多数にその内容を理解させることは難しい。「生徒主体の授業の工夫」をすればするほど、難易度の高い問題は取り上げにくくなる。しかしこれは二者択一の問題ではなく、両立が可能な問題である。生徒の多様なニーズに応えられるよう授業の工夫が必要である。

<<全体の割合>>

	2006年度			昨年
授業の準備、教材の工夫	4	2203	42.0%	56.1%
	3	2516	47.9%	36.1%
	2	461	8.8%	5.8%
	1	70	1.3%	2.0%
充実感	4	1894	36.9%	43.4%
	3	2313	45.1%	39.7%
	2	775	15.1%	12.9%
	1	150	2.9%	3.9%
授業の進め方	4	2275	44.7%	49.8%
	3	2359	46.4%	39.9%
	2	380	7.5%	8.2%
	1	72	1.4%	2.1%
生徒主体の授業の工夫	4	1836	36.2%	37.7%
	3	2128	42.0%	38.7%
	2	926	18.3%	18.0%
	1	182	3.6%	5.6%
説明の分かり易さ	4	1989	39.5%	44.7%
	3	2263	45.0%	38.3%
	2	664	13.2%	13.0%
	1	118	2.3%	4.1%
生徒への接し方	4	1864	37.3%	43.8%
	3	2164	43.4%	34.7%
	2	812	16.3%	16.3%
	1	151	3.0%	5.2%
学習への取り組み	4	1924	39.3%	42.7%
	3	2195	44.8%	39.4%
	2	682	13.9%	14.3%
	1	99	2.0%	3.6%
態度姿勢	4	2402	49.5%	44.8%
	3	1733	35.7%	32.8%
	2	608	12.5%	16.8%
	1	114	2.3%	5.6%
評価とその説明	4	1863	39.3%	45.0%
	3	2428	51.3%	42.1%
	2	376	7.9%	10.3%

<< 教科別の集計について >>

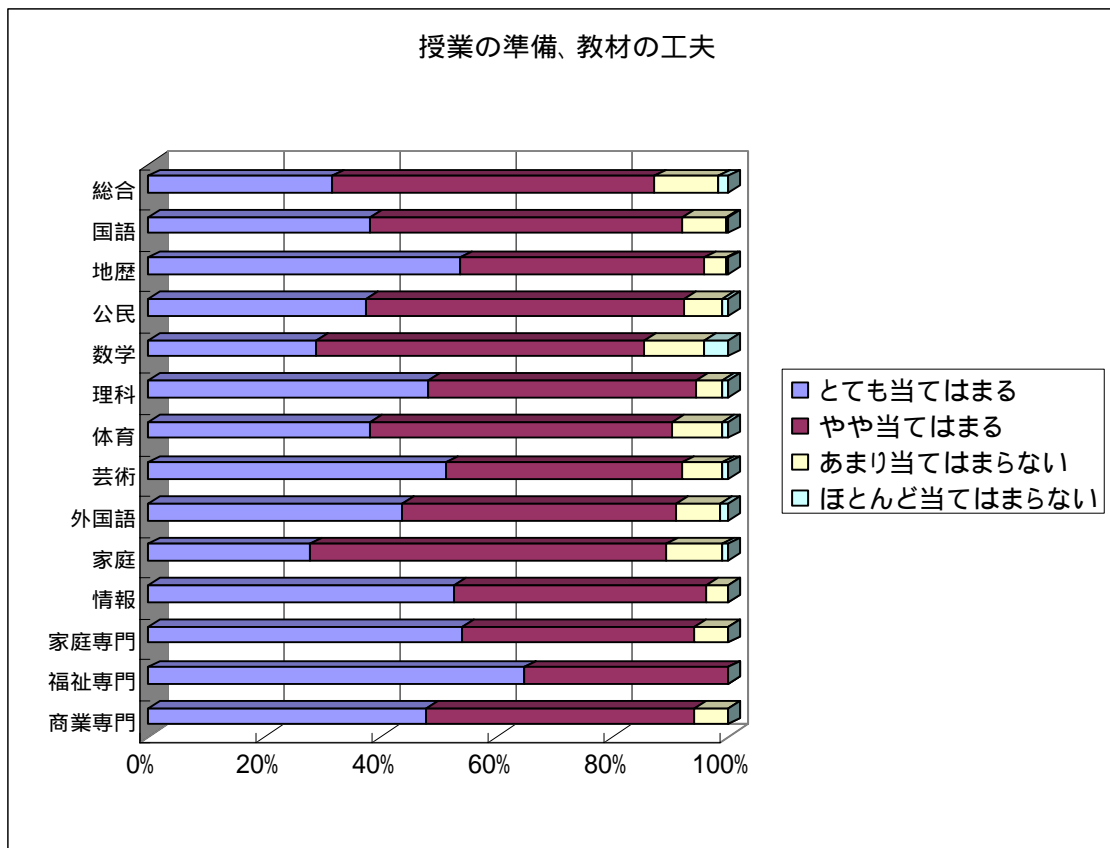
後期の評価が高かったのは、福祉専門科目と家庭専門科目である。実習を主体とした教科で、生徒の興味関心に基づいて生徒が自ら選択し、授業に直接参加させることで目的も理解しやすい。前期ではこれらの科目を家庭科に含めて統計を算出したため、家庭科が全体としては高い数値となっていたが、純粋な家庭科では、一番低い数値となってしまった。次年度への改善が望まれる。

前期より数値が大きく増加したのは理科と数学である。総合的な学習の時間も大きく数値が上がっているが、これは3期生が前期集中講座としたために、後期では集計されていない。よって4期と5期の2学年分の集計であるので簡単に比較はできない。しかし、4期の修学旅行に基づいた調べ学習が終了し、後期は進路について集中的に学習に取り組めた結果、高い数値になったものと思われる。理科・数学は前期の評価に基づいて、原因を分析し研究授業を行って、その成果を他の科目に応用することで、全体としてのレベルアップにつながった。他の文系科目も、数値の顕著な上昇が見られ、それなりの成果があったものと判断される。

教科別の集計(%)		総合学習	国語	地歴	公民	数学	理科	体育	芸術	外国語	家庭	情報	家庭専門	福祉専門	商業専門
授業の準備、教材の工夫	4	32	38	54	37	29	48	38	51	44	28	53	54	65	48
	3	55	54	42	55	57	46	52	41	47	62	44	40	35	46
	2	11	8	4	7	10	5	9	7	8	9	4	6	0	6
	1	2	0	0	1	4	1	1	1	1	1	0	0	0	0
充実感	4	25	26	46	30	23	37	41	52	39	23	43	54	55	48
	3	53	56	46	53	57	49	46	40	47	54	51	40	40	35
	2	17	15	8	15	14	11	11	7	12	19	5	5	2	13
	1	5	3	0	2	6	2	2	1	2	4	1	1	2	4
授業の進め方	4	37	42	56	39	44	55	44	45	51	31	51	53	59	60
	3	51	52	42	52	48	43	49	47	41	59	47	41	39	37
	2	10	6	2	7	6	2	6	8	6	9	2	7	2	2
	1	2	0	0	1	3	0	1	0	2	1	0	0	0	2
生徒主体の授業の工夫	4	33	25	30	30	31	35	50	57	48	30	45	55	59	35
	3	50	51	55	55	50	45	41	37	39	51	43	40	40	42
	2	15	21	14	14	13	17	8	6	10	17	10	5	1	17
	1	2	4	1	1	6	3	1	0	3	2	2	0	0	6
説明の分かり易さ	4	36	35	52	35	28	45	41	50	41	26	46	50	61	44
	3	52	50	43	47	51	46	49	43	45	55	44	41	36	46
	2	10	12	4	15	15	8	8	6	11	15	9	8	2	8
	1	2	3	0	3	6	1	2	1	2	4	1	1	0	2
生徒への接し方	4	32	33	37	36	32	38	40	52	47	27	43	51	58	33
	3	53	48	50	52	48	46	48	38	42	51	43	42	42	40
	2	12	16	13	11	15	13	10	9	9	19	12	6	0	23
	1	2	3	1	1	6	3	2	1	2	3	2	0	0	4
学習への取組	4	35	26	42	34	29	38	44	49	36	28	41	50	49	33
	3	46	55	46	50	54	49	45	43	49	53	51	46	46	50
	2	17	15	11	14	14	12	10	8	13	15	8	4	4	13
	1	2	3	0	2	3	1	1	0	2	4	1	0	1	4
態度姿勢	4	47	39	49	44	51	47	49	49	42	44	46	50	47	46
	3	40	43	36	45	37	39	41	41	43	42	42	44	47	42
	2	11	16	12	11	10	12	8	9	13	12	11	6	5	12
	1	2	2	2	0	2	2	2	1	2	2	1	0	1	0
評価とその説明	4	43	45	55	44	43	54	46	53	50	35	49	49	51	42
	3	45	48	42	48	48	42	48	38	44	53	49	45	48	56
	2	10	6	3	7	6	4	4	8	5	11	2	5	1	2
	1	1	1	0	1	3	0	1	0	1	2	0	0	0	0

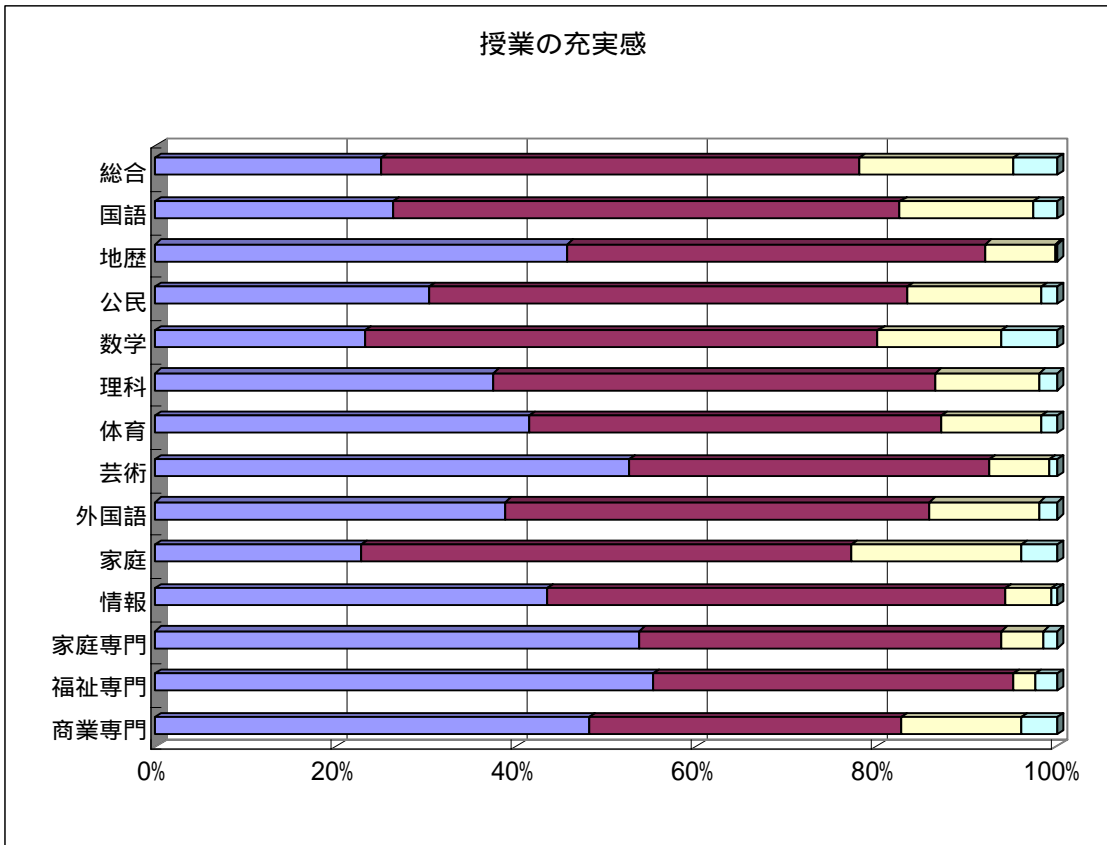
<< 項目別の集計 >>

「先生は教え方や教材を工夫し、よく準備している」



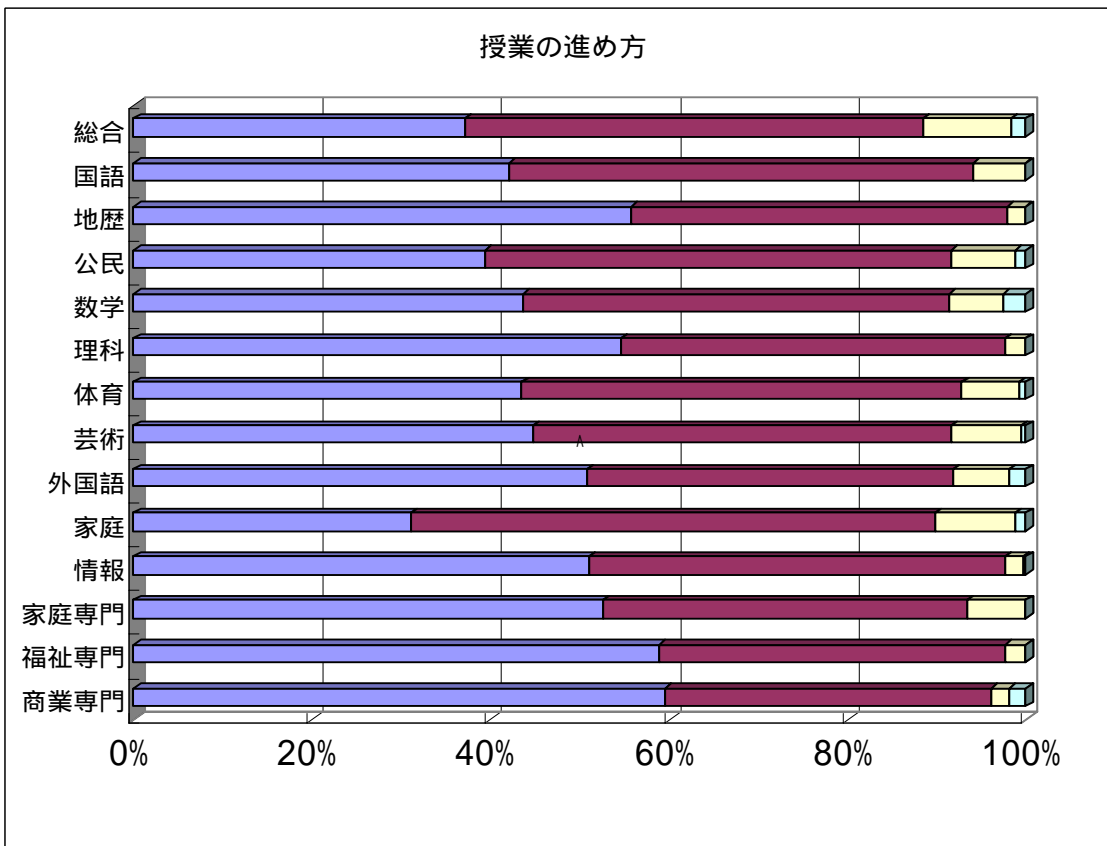
福祉専門・家庭専門・地歴が高い評価を得た。

「授業に充実感・達成感がある」



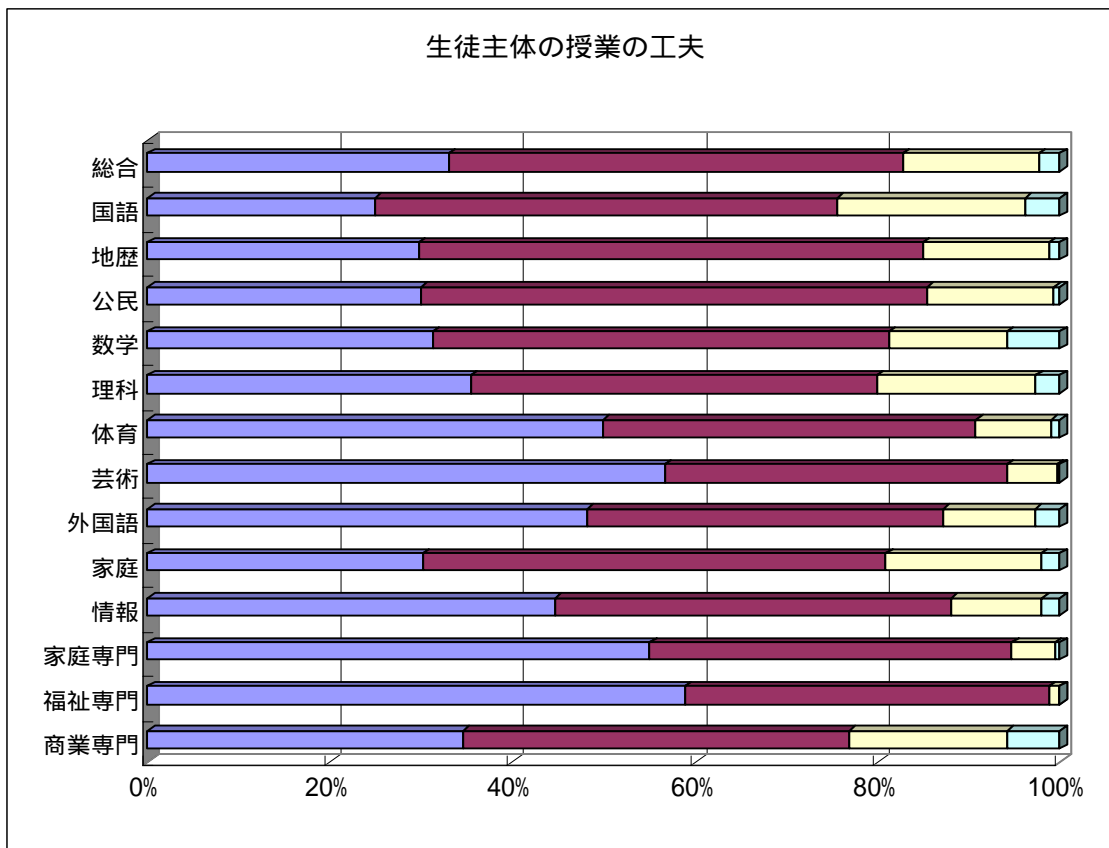
福祉専門・家庭専門・芸術が高い評価を得た。

「授業は系統立てて（順序を追って）進められている」



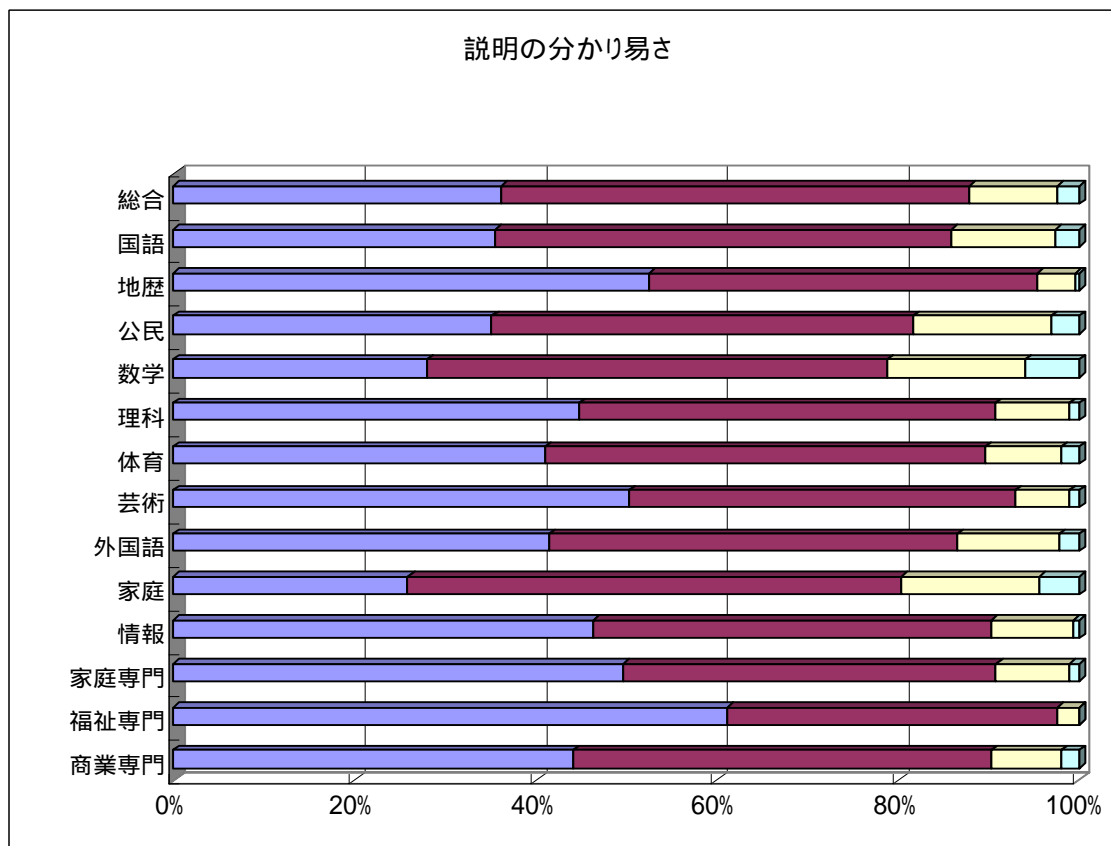
福祉専門・家庭専門・地歴が高い評価を得た。

「先生が教えるだけでなく、生徒が主体となった授業展開も工夫されている」



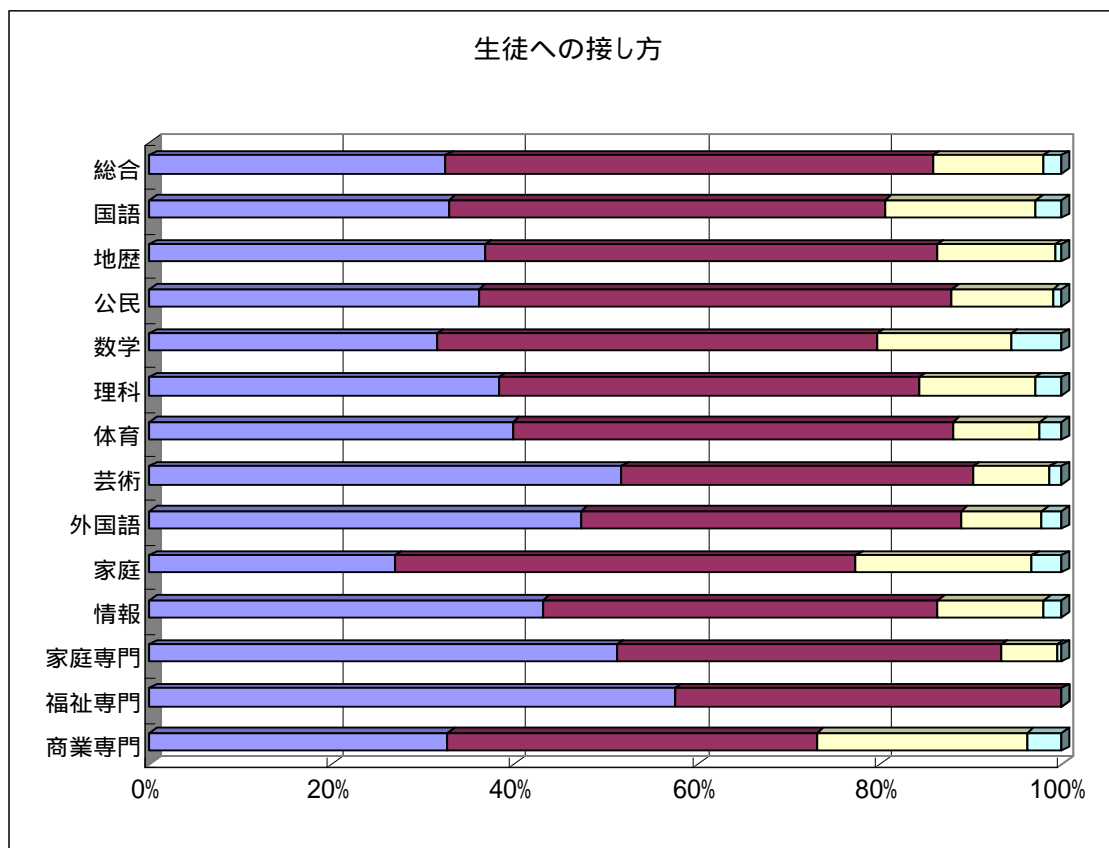
福祉専門・家庭専門・芸術が高い評価を得た。

「先生の説明や指示は明らかですっきりしている」



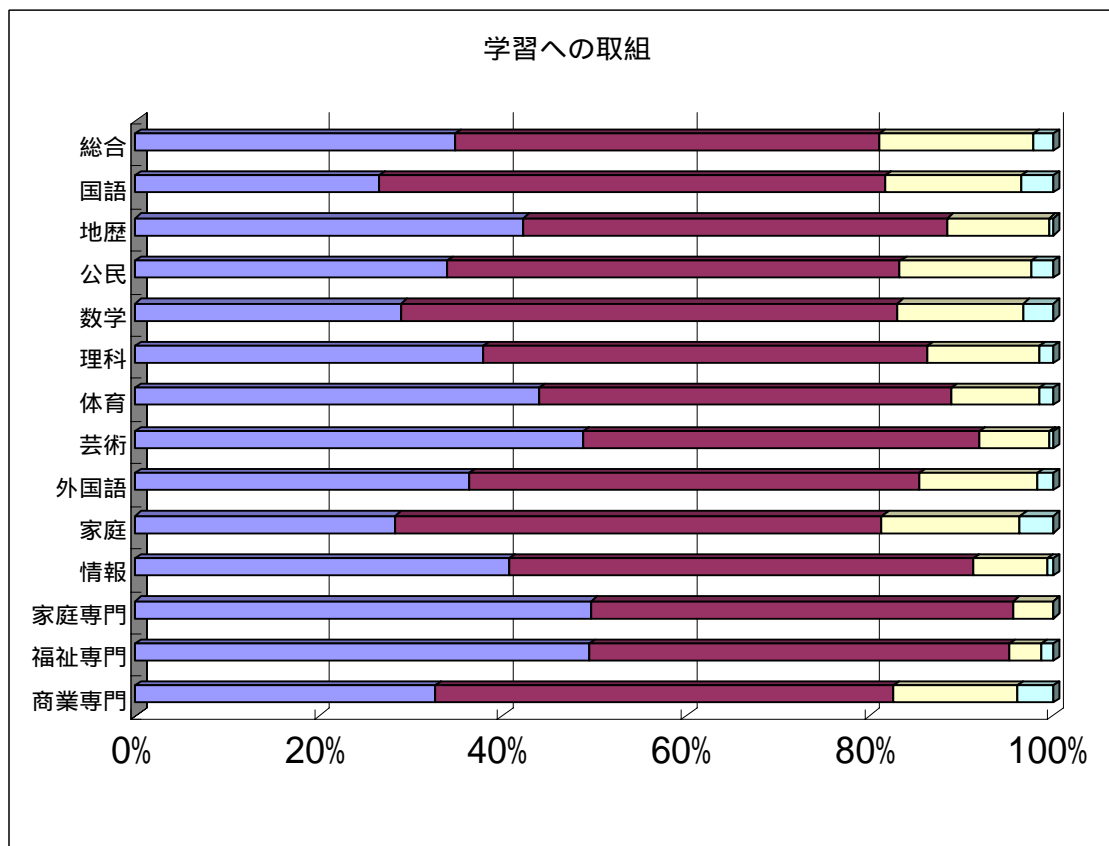
福祉専門・芸術・地歴型が高い評価を得た

「先生は生徒一人ひとりと接し、生徒の発言も大切にしながら授業を進めている」



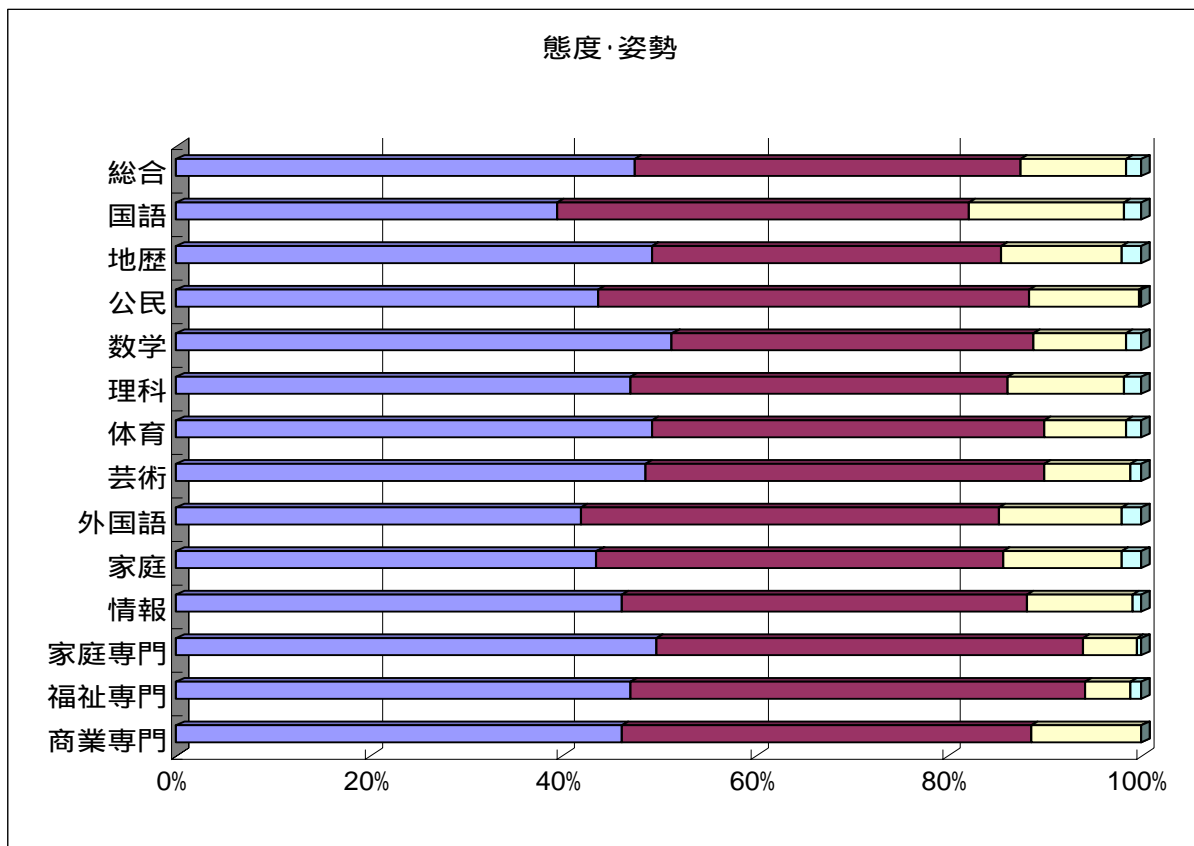
福祉専門・芸術・家庭専門が高い評価を得た。

「自分は授業に対して興味関心を持って積極的に取り組み努力している」



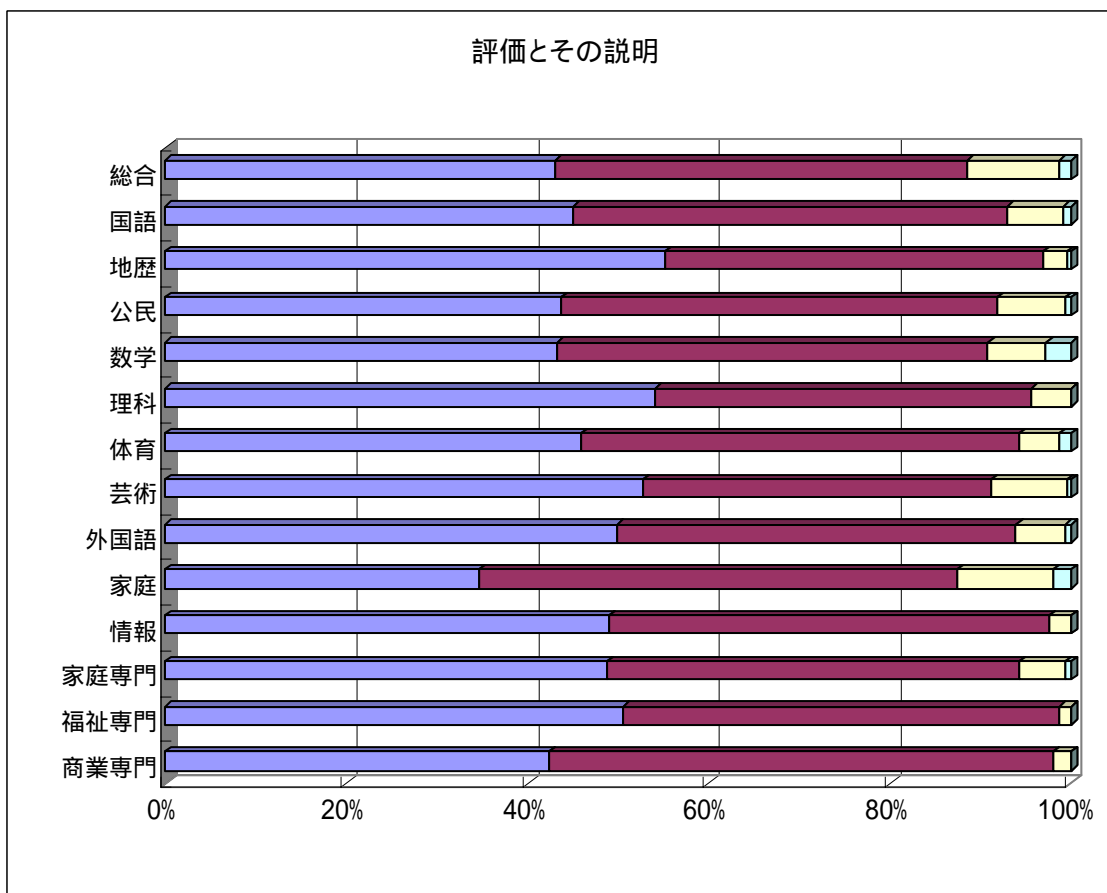
家庭専門・福祉専門・芸術が高い評価を得た。

「自分は授業に遅刻せず、他の迷惑にならないようマナーを守って授業に取り組んでいる」



家庭専門・数学・地歴が高い評価を得た。

「先生から成績の評価方法がしっかりと示され、それは納得のいくものである」



地歴・理科・芸術が高い評価を得た。

## 7. 生徒からのコメント

総合的な学習の時間 = キャリアの時間

- ・ 教室がうるさい。静かにさせて欲しい。(2名)
- ・ 一生懸命頑張る(3名)
- ・ なんのためにやるのか分からない(3名)

### 国語

- ・ ディベート等をやりたい。(3名)
- ・ 説明はわかりやすいが、話ばかりで眠くなる。(4名)
- ・ わかりやすい発問をしてほしい。(3名)
- ・ テストで選択を増やしてほしい。
- ・ たまによく分からないことがあったが、今のところは大丈夫です。
- ・ 漢文・古文はとても難しい。もう少し分かりやすく教えて欲しい。(5名)
- ・ 分かりやすくていい。質問がないか、聞き返してくれるのが、すごくいい。授業に季節を感じる。(2名)
- ・ 私語を慎みたい。ノートをもっときれいに使いたい。(2名)
- ・ 国語の授業に、もっと興味をもたなくてはいけないと思う。(2名)
- ・ 順番に指さない方がいい。緊張して寝なくなり、話をしっかり聞くとと思う。
- ・ 先生がうるさいし、分かりづらい
- ・ 先生の説明は明らかではあるがすっきりはしていない。生徒を馬鹿にしていると思う。
- ・ 字はキレイで大きくて、とても見やすいです。
- ・ 宿題が欲しいです。
- ・ なんで名前を書くのか。誰が評価したかは、どうでもいいのではないのか。
- ・ 周りの友達がしゃべっていたのに(一緒に)注意されていやだった。授業は真面目に取り組んでいる。
- ・ 漢字は難しいです
- ・ 興味があって、知識を増やしたくて受けているのに「そんなことも分からないで受けているのか！」という発言は、生徒に対して失礼だと思う。(4名)

### 地歴

- ・ 似たような名前の登場人物がいっぱいいるので覚えるのが難しかった。
- ・ とにかくメモったり先生の話をしっかり聞いてがんばります。(2名)
- ・ ノートに書いた意見にコメントをつけて欲しいです。
- ・ あまり難しい問題を質問しないでほしい。
- ・ いままできらいだったけど最近は授業が好きになってきた。
- ・ 先生の授業はとても楽しい。(45名)
- ・ ねてると起こしてくれるからいい。
- ・ 世界史と政治・経済が少しごっちゃになる。その日勉強したことの理解はできるけどすぐ忘れちゃう。
- ・ 工夫はしているが準備した物の忘れ物が多い(4名)
- ・ 日本史は好きだけど、暗記が苦手なテストができない
- ・ 生徒が発言できる機会がちょっと少ない...
- ・ テスト用紙などに感想や意見を書かせており、その点が良い
- ・ 生徒の話聞き、一人一人に向けて授業をしてくれている(2名)
- ・ 字が小さい

- 説明もわかりやすく、黒板の字が丁寧で見やすい(2名)
- プrintへの書き込みによる作業の時間があり、楽しい
- 授業の内容はよいが、周りが私語が多くてうるさい。
- 校外学習が楽しい(3名)

#### 公民

- ノートがとり易い。(2名)
- 楽しい。(4名)
- 対策プリントが良い。(2名)
- しっかり聞くようにする。(2名)
- 寝ないようにする。(2名)
- 発言できるようにする。
- 難しい。(2名)
- 先生の授業は分かりやすく伝えようとしているのが分かる。(6名)
- 説明がよく判らないのでもう少し判りやすくしてほしい。
- ボディーランゲージが面白い!
- ねてる人やケータイ使っている人をきちっとしかってくださっている先生なので授業しやすいです。
- テストの点が平均以下の人達の名前を公表するのはあまり良くないと思う。点数をバラされたくない人もいると思う。(3名)
- 秘密選挙という制度もあるのに、このシートが記名制なのは何故?

#### 数学

- 何を言っているのかわからない(11名)
- 眠くならないような授業にしてください
- 教科書に沿った内容だけでなく、もっと詳しく説明してほしい(4名)
- 字はとても大きくてきれいで見やすい。ノートもとりやすいので良い(2名)
- 授業態度の悪い生徒がいて不快
- 生徒に問題を解かせる方が良い
- 問題や授業内容の説明が雑(8名)
- いつも授業内容があまり理解できないまま終わってしまうので、もっとわかりやすい説明をしてほしいです。授業をいそいでいるのに、いつも10分前くらいに終わってしまう。はやく終わったなら、はやく解散してほしいと思う。
- 説明をしながら例題をやるのはいいが、その前の公式がまだ書き終わらないうちに説明がはじまってしまうので聞けない。(9名)
- 毎回復習があるので、すごく分かりやすい。
- 進むのを早くしてほしい。

#### 理科

- 黒板も見やすい。
- 授業のときに黒板の下に字を書いて字が見えにくいときがあるのでもう少し上に字を書いてほしい。(4名)
- 毎回の小テストは良いと思います。テスト勉強のとき積み重ねてきた小テストはすごく役に立ちます!(3名)
- 無駄な話がなくてすごくいい。物を使って説明してくれるので授業もとっても分かりやすい。(12名)

- ・ もっと少人数の方が良い。
- ・ 普段生徒 1 人 1 人の授業点を高くするように努めているのでやりやすい。
- ・ 発展問題など授業であつかったものを利用する問題をどんな形でもいいので出してもらえるとさいわいです。
- ・ 実験をもっとやりたい。( 3 名 )
- ・ 名前を書いたら正当な ( 授業 ) 評価がしにくいと思います。
- ・ 教室が寒いので、ストーブを使用して欲しい。
- ・ 先生の説明がおおげさで、逆にわからなくなってしまうことがあります。
- ・ 生徒を指名して当てたり、先生だけがしゃべるような授業は、見直した方がいい。
- ・ もう少し、分かりやすく説明してくれるとうれしいです。
- ・ プリントが多くて大変だけどいっぱい書くと覚えられるので良い。( 2 名 )
- ・ 一人一人の発言を大切にされていて、楽しい授業だと思う。( 5 名 )
- ・ ビデオとか面白いのもっとやってほしい。( 2 )
- ・ この授業の実験は生徒が主体になり楽しく新しい事を知る事ができた。( 2 名 )
- ・ 毎日楽しい。校外授業も楽しいから好き。

#### 保健体育

- ・ 楽しい ( 17 人 )
- ・ もっと動きたい
- ・ 先生がちゃんと生徒を見ているか分からない
- ・ 口調を直して欲しい
- ・ 男女でもやりたい
- ・ 飽きている。おもしろさがほしい ( 2 人 )
- ・ もっと基礎練習が必要
- ・ いろいろなスポーツをしたい
- ・ 上手な人は楽しいと思うけど、そうでない人にはつらい
- ・ もっと効率よくやったほうがいい

#### 芸術

- ・ 字をきれいに書きたいから書道を取っているのですが、すごい為になる。
- ・ 毎回字を書くたびに字がきれいになっている気がしている。
- ・ 毎回授業内だけでは終わらず、空き時間などにやらなければならないのは大変だけど、作品が完成したときや上手く書けたときはとてもやりがいがあります。
- ・ 毎回の授業が楽しい。( 2 名 )
- ・ どうしたら「 5 」が取れるか知りたい。

#### 外国語

- ・ やる前の説明不足が目立つ
- ・ 教科書の重要表現を覚えることは大切だと思うが、これを覚えるだけでは会話の応用はできないと思います。
- ・ ディスカッションがとても楽しかった。
- ・ 先生は一人一人をちゃんと見てくれるので良いと思います。( 7 名 )
- ・ 字は大きくてきれいでノートを取りやすい。ノートをとる時間もちょうど良いので文句ありません。
- ・ グループワークはあまりいらぬと思う。

- ・ 1日の復習として宿題が欲しい
- ・ 簡単な英語の歌をながすのがいい
- ・ 日本語訳の解説をするときなど、少し授業が早い(3名)
- ・ 短時間の補習を何日間かやりたい
- ・ なんかの用法が出たときでも、プリントを使って詳しくやってくれるので、わかりやすいし覚えやすい。
- ・ 音読のとき、つい声が小さくなってしまう。教え方はわかりやすく、ありがたいです。
- ・ 説明などがわかりやすくていいと思う。(3名)
- ・ プリントを考える時間をもう少しだけ増やしてほしい。
- ・ 単語テストは英語があまり得意ではないから続けてほしい。(3名)
- ・ すごく苦手な英語が以前は大嫌いだったけど先生の授業は自分でも理解できるからがんばれる。
- ・ わかりやすくおもしろい授業でとても充実している。(15名)
- ・ 人を見下した言い方をしないでください。最初から自分たちを「できない」と決めつけているようで、とても不快です。
- ・ プリントの内容がやさしすぎる。もう少し発展的な内容の授業もしてほしい。(3名)
- ・ 答のわかる人に答えてもらうという今のやり方が良い。このほうがゆっくり問題に取り組める。
- ・ 教科書通りだが、生徒の意見も大切にされた方がいい。
- ・ 教え方がすごく下手。自分中心で生徒のことなんて考えていない。
- ・ 自分の名前を書いて正しい評価がくだせるのだろうか。
- ・ 先生にお願いしてもシカトされる。めんどくさがらないで。テスト後にテスト範囲のプリント返さないで。
- ・ 様々な国の料理を作ることができた。(7名)
- ・ 様々な国の地理や文化を知ることができた。(7名)
- ・ レポートは大変だった。(6名)
- ・ 料理を美味しくつくることができた(6人)
- ・ 様々な国の料理を食べられてよかった。(4名)
- ・ また受けたい。作ってみたい。(2名)
- ・ もっと料理をつくりたかった。(2名)
- ・ まだまだ知りたい国がある
- ・ 料理の腕が上がった。
- ・ 複数で調べたものを発表してもよいと思う。
- ・ 少しずつだけどハングルが分かってきて楽しいです。
- ・ 一番楽しい授業で充実しています。自由登校になっても行きたいと思います。

## 家庭

- ・ 今のままで十分にわかりやすいし、おもしろいので特にありません。
- ・ 調理実習が楽しいです。もっとしたいです。(3人)
- ・ 話すペースが速くて聞きとりづらい。(6人)
- ・ 黒板はまえよりわかりやすくなった。
- ・ 少しゆっくり目だから、もうちょっと早くしてください。
- ・ ホワイトボードが見えにくい
- ・ ねてたり、ケータイいじっている人にちゃんと注意している いい先生。
- ・ テストのことをもっと教えてほしい。どこを勉強しているか あまり分からない。

## 情報

- ・ 授業をもう少しゆっくりやってほしいです（ 11名）
- ・ パソコンは好きだから楽しい。（ 2名）
- ・ 情報は楽しいので、これからもちょうとやっていきたい。（ 2名）
- ・ 先生の説明はとてもわかりやすい。（ 2名）
- ・ 最近遅刻しないで頑張っている。（ 2名）
- ・ 先生の話をしっかり聞いて授業を受けている。
- ・ ワープロは好きじゃないけど表計算は楽しい。
- ・ できなかったところができるようになると楽しい。
- ・ 進み方が早いですがTTの先生のおかげでついていけている。
- ・ ホワイトボードの字が見にくいときがある
- ・ 全部のプリントをまとめて、欲しい。
- ・ あまり授業感想を提出できなかったのでもっと出したい。
- ・ パソコンは難しい。

## 家庭専門

- ・ 調理実習はとても良いんですけど、普通の授業は毎回同じ事を勉強してる気がします。
- ・ 準備ができているのは良い。
- ・ 実習の時にみんな頭がいっぱいなのに、先生が大きな声で発言していて、混乱する。
- ・ 二人の先生が言っていることが違うので混乱する。
- ・ 1日に必要な栄養を考えて献立を立ててみるのが楽しいです。勉強になりました。
- ・ 話しが長いから、食べるのも早くしなきゃダメになるから短くしてほしい。
- ・ 調理すっごくたのしい。習ったものを、うちでつくります。

## 商業専門

- ・ 簿記は難しい！ 前期の成績が納得いかなかった。

・ 来年度に向けて

全般的には期待された成果を出すことができた。

7月のアンケート結果で示されたウィークポイントを、各教科で分析検討して、10月からの授業に生かし実践した結果、各項目で評点の上昇が見られたことは成果と言って良いと思う。しかしこれを終着点とはせず日々の授業の振り返りをして、更に「生徒にとって、より良い授業」を目指していきたいと思う。

来年度の課題は、記名方式の問題である。県の説明会では80%の学校が記名方式を採用しているとのことで、本校も踏み切ったがその直後、新聞紙面に「記名式で正当な評価が下せるのか。」との記事が載った。生徒のアンケートにも「自分の名前を書いて正しい評価が下せるのでしょうか。」と疑問を投げかけているものが複数ある。記名式は、「疑問点を持ったものに直接回答を出せる」「責任を持った回答を引き出せる」という利点があるが、それよりもアンケートの実効性にかかる問題なのでしっかり検討したい。

もう一つは回収方法の問題である。現在は各科目毎に時間を割いて授業評価を実施した。担当者が直接回収して、アンケート等を分析できる利点があるが、生徒にとって見ると、毎時間同じようなアンケートをとることになり、煩雑である。そこで、県の例示にもあるようにLHR時での一括授業評価を検討したい。単位制の高校であるので、授業科目の多様性がネックであるが、その点が克服できれば実施してみたいと思う。